



2021年度
第4回 清流環境作文コンクール
受賞作品集



けん
健人くん



さくらちゃん

一般財団法人 神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
イタイイタイ病対策協議会

後援／富山県教育委員会 富山県小学校長会 富山県小学校教育研究会 富山県PTA連合会



受賞作品集

神通川清流環境賞

第4回清流環境作文コンクール部門受賞作品集発刊にあたり

一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会

代表理事 高木勲寛

1972年8月イタイイタイ病裁判は完全勝訴し三井金属鉱業との直接交渉によって締結した患者救済と汚染農地の復元、そして富山平野を潤し豊かな稔りを齎す神通川の清流が甦る活動を続けて50年。神岡鉱業へ通過点として50回目の立入調査を実施しました。

2013年12月富山県知事の立会の下、当被害団体と三井金属鉱業及び神岡鉱業は付帯条件を付し「全面解決」の調印をしました。

イタイイタイ病の惨劇と神通川の清流を甦らせた史実を風化させないことを念じて全面解決を機に神通川清流環境賞を創設しました。清流環境作文コンクールはその中の一つです。

令和3年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止の不安な日々を過ごすことになりました。その中で第4回清流環境作文コンクールへのご応募をお願いするべく県下の全小学校へ郵送などの形で全生徒さんへ届くように「要項」をお届けしました。それによりコロナ禍の中各学校の教育環境が大変であったにも拘らずこの作文コンクールの趣旨にご理解頂き53の小学校から1359点のご応募を頂きました。

校長先生をはじめ担当の先生方のご理解ご協力に衷心より深く感謝を申し上げます。ご応募頂きました作品には命の尊さ、食物の大切さ、自然について、そしてSDGsや環境についても好奇心と感性豊かな小学生の目線で書いていただきました。

審査委員会は9名の先生方（別記）に慎重に審査を行っていただき入選51点を作品集として発刊することが出来ましたことに感謝申し上げます。

受賞作品集は今回も富山県下の全小学校へお届けすることとしております。

今回も富山県教育委員会、富山県小学校長会、富山県教育研究会、富山県PTA連合会のご後援を戴きましたことに衷心よりお礼を申し上げます。

コロナの終息を念じ令和4年4月以降に第5回の応募を実施することとしておりますので趣旨にご理解・ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

審査講評

第4回清流環境作文コンクール審査委員長

元 富山国際大学子ども育成学部教授 水上義行

第4回清流環境作文コンクール受賞者の皆さん、受賞おめでとうございます。審査委員会を代表しまして講評をさせていただきます。

今年度の第4回作文コンクールの応募期間を、令和3年7月1日から10月20日にかけて設定し、富山県内の小学校にご案内をさせていただきました。その結果、応募いただいた学校は、53校に上がり応募総数1359点の素晴らしい作文を届けていただきました。応募いただきました児童の皆さんには、厚く御礼申し上げます。また、新規に応募いただいた学校は12校あり、これまでにご案内しました県西部・東部市町村立小学校、義務教育学校、附属小学校、浜黒崎小学校松風分校、片山学園小学校併せて182校中89校の小学校に応募いただきました。回を重ねる毎に、本作文コンクールの趣旨をご理解いただいていることに対し、重ねて御礼申し上げます。

審査の観点としては、次の4点を基軸にいたしました。

- (A) イタイイタイ病に関する内容・・・・・・・・清流環境歴史賞
- (B) 自然・社会体験に対する内容・・・・・・・・清流環境体験賞
- (C) 持続可能な自然・社会への研究内容・・・・・・・・清流環境科学賞
- (D) がんばって応募してくれた学校・学級・・・・・・・・清流環境奨励賞

応募作品は、いずれも豊かな自然・社会環境の持続を願う、子ども達の熱い気持ちが綴られておりました。特に、今回は、繰り返しはならないイタイイタイ病を調査・研究した優秀な作品が多くありました。そのため、清流環境歴史賞は、甲乙つけがたく受賞作品を18点挙げさせていただきました。イタイイタイ病裁判勝訴50年の節目に相応しい、作文コンクールとなりました。

受賞作品は、第1回から3回に引き続き、全ての富山県内各小学校に配布する予定となっています。公害学習、作文学習、SDGs、ESD教育などに活用いただき、子ども達の表現力の育成に役立てていただければ幸いです。

終わりになりますが、第4回清流環境作文コンクールに、様々なご配慮をいただきました関係各位に厚く感謝申し上げます。

◆作文コンクール受賞者一覧

清流環境体験賞		清流環境歴史賞												賞名										
中学年部門	低学年部門	高学年部門						中学年部門			低学年部門	部門	賞	氏名	小学校名	学年	題名	ページ						
優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	優秀賞	最優秀賞				
丸山 隼橙	竹脇 大晴	平田 璃咲	杉本 悠羽	中西 滯菜	松岡 勇真	山村 華帆	長谷川 瑛美	後藤 志歩	小橋 菜々実	小川 央翔	伊藤 姫花	宮田 藍璃	水本 帆香	松井 秀路	稲場 慧吾	道淵 瑚子	山崎 雅治	小橋 晟	黒田 幸愛	浦野 悠愛	加藤 建志	上原 紫道	鯉川 絢	
富山市立堀川南小学校	高岡市立野村小学校	黒部市立桜井小学校	富山市立宮野小学校	富山市立八幡小学校	富山市立草島小学校	富山市立宮野小学校	富山市立杉原小学校	射水市立大門小学校	富山市立堀川南小学校	富山市立草島小学校	富山市立大久保小学校	富山市立鶴坂小学校	富山市立新保小学校	富山市立新保小学校	富山市立新保小学校	水見市立上庄小学校	富山市立新庄北小学校	富山市立堀川南小学校	富山市立新庄北小学校	水見市立湖南小学校	富山市立新庄北小学校	富山市立芝園小学校	富山市立芝園小学校	富山市立芝園小学校
3年	4年	1年	1年	1年	1年	6年	6年	6年	6年	5年	5年	6年	5年	6年	6年	5年	4年	3年	4年	4年	4年	2年	1年	
ぼくと小さい生き物のいる町	おばあちゃんとのボランテニア清そう	いしだはまのたからもの	むしさがし	わたしのいえのクワガタ	あさがおさいたよ	二つの課題	公害病防止の第一歩	イタイイタイ病はおそろしい	未来へ伝えていこう	萩野医師について	人々の生活をうばったイタイイタイ病	人々を苦しめた差別と偏見	川の水がおこした悲げき	イタイイタイ病を知って	大勢の人々の努力で存在する今	イタイイタイ病をみんなに知ってもらいたい！	イタイイタイ病を調べてみて	イタイイタイ病のことを知ろう	イタイイタイ病を調べてみて	おそろしいイタイイタイ病	取りもどした美しい水と大地	イタイイタイ病について調べたこと、考えたこと	きょうふのびようき	イタイイタイびようしりようかんについて
58	56	54	52	50	48	44	42	40	38	36	34	32	30	28	26	24	22	20	18	16	14	12	10	

清流環境科学賞												清流環境体験賞														
高学年部門				中学年部門								高学年部門				中学年部門										
佳作	佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	優秀賞					
村上 七星	佐双 颯斗	中村真 颯弥	吉田 百花	谷 山彦	小西 梨栞	大山 佐奈	生田 かこ	浅野 朱俐	米沢 優志	羽岡 愛衣	黒田 唯心	橘 奏志	城岸梨 央花	清水 暹雅	若林 由萌	中谷 杏菜	伊藤 瑛紀	澤井 瑠花	荒木 結夢	砂田 嶺太	鈴木颯 優太	芹原 沙来	田上 珀慶	高瀬 青空	亀谷慶 仁朗	吉田 彩乃
富山市立大久保小学校	富山市立新保小学校	富山市立速星小学校	富山市立萩浦小学校	南砺市立利賀小学校	富山市立新庄北小学校	富山市立速星小学校	南砺市立利賀小学校	富山市立速星小学校	富山大学人間発達科学部附属小学校	高岡市立野村小学校	砺波市立砺波北部小学校	射水市立金山小学校	南砺市立利賀小学校	富山市立新庄小学校	富山市立音川小学校	富山市立速星小学校	高岡市立下関小学校	富山市立宮野小学校	砺波市立出町小学校	富山市立芝園小学校	富山市立大久保小学校	高岡市立能町小学校	富山市立大久保小学校	富山市立速星小学校	南砺市立利賀小学校	富山市立萩浦小学校
5年	5年	5年	5年	3年	4年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	3年	2年	2年	2年	2年	2年	5年	5年	5年	5年	6年	4年	4年	4年	3年
自然豊かな片貝川	ばくと魚とプラスチック	安全な水をずっと使いたい	私たちが変える百年後の未来	生物の住む地いきとかんきょう 大切な水	みんなで防ごう！地球温暖化	食の安全の大切さ	ごみを捨てるだけで	「水のけんきゅう室」にさんかして	みらいの世界はどうか	川を守るために	ホタルのすみかを守る	きれいな百せ川	ノコギリクワガタとぼくの夏休み	学校のサツマイモ	わたしたちののみ水はどこから	川の生きものをまもろう	美しい富山湾を守る人たち	私たちのくらしと自然の関わり	白いライチョウが見たい	みんなで守っていききたい自然	田んぼのそばで暮らす町	水と生き物を大切に	ごみをへらして、くらしを守ろう！	山や川での体験	新しいきせつが来たたら・・・	
114	112	110	108	106	104	102	100	98	96	94	92	90	88	86	84	82	80	76	74	72	70	68	66	64	62	60

清流環境奨励賞 ◆学校賞・学級賞

学級賞		学校賞	
富山市立草島小学校	富山市立草島小学校	富山市立草島小学校	富山市立草島小学校
富山市立草島小学校	富山市立草島小学校	富山市立草島小学校	富山市立草島小学校
富山市立堀川南小学校	富山市立堀川南小学校	富山市立堀川南小学校	富山市立堀川南小学校
富山市立新庄北小学校	富山市立新庄北小学校	富山市立新庄北小学校	富山市立新庄北小学校
富山市立大久保小学校	富山市立大久保小学校	富山市立大久保小学校	富山市立大久保小学校
富山市立古沢小学校	富山市立古沢小学校	富山市立古沢小学校	富山市立古沢小学校
富山市立中央小学校	富山市立中央小学校	富山市立中央小学校	富山市立中央小学校
富山市立音川小学校	富山市立音川小学校	富山市立音川小学校	富山市立音川小学校
富山市立熊野小学校	富山市立熊野小学校	富山市立熊野小学校	富山市立熊野小学校
富山市立新保小学校	富山市立新保小学校	富山市立新保小学校	富山市立新保小学校
富山市立速星小学校	富山市立速星小学校	富山市立速星小学校	富山市立速星小学校
富山市立鶯坂小学校	富山市立鶯坂小学校	富山市立鶯坂小学校	富山市立鶯坂小学校
富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校
射水市立金山小学校	射水市立金山小学校	射水市立金山小学校	射水市立金山小学校
南砺市立利賀小学校	南砺市立利賀小学校	南砺市立利賀小学校	南砺市立利賀小学校

◆応募学校一覧

入善町	入善町立入善小学校			
黒部市	黒部市立桜井小学校			
滑川市	滑川市立西部小学校			
上市町	上市町立相ノ木小学校	上市町立南加積小学校		
立山町	立山町立立山中央小学校			
富山市	富山市立萩浦小学校	富山市立八幡小学校	富山市立草島小学校	富山市立新庄小学校
	富山市立水橋西部小学校	富山市立上条小学校	富山市立新庄北小学校	富山市立堀川小学校
	富山市立堀川南小学校	富山市立熊野小学校	富山市立新保小学校	富山市立大久保小学校
	富山市立速星小学校	富山市立鵜坂小学校	富山市立宮野小学校	富山市立神保小学校
	富山市立音川小学校	富山市立杉原小学校	富山市立呉羽小学校	富山市立古沢小学校
	富山市立芝園小学校	富山市立西田地方小学校	富山市立中央小学校	富山市立奥田小学校
	富山大学人間発達科学部附属小学校			
	射水市立作道小学校	射水市立堀岡小学校	射水市立塚原小学校	射水市立小杉小学校
	射水市立金山小学校	射水市立歌の森小学校	射水市立太閤山小学校	射水市立大門小学校
	射水市立大島小学校			
高岡市	高岡市立能町小学校	高岡市立下関小学校	高岡市立野村小学校	高岡市立戸出西部小学校
	高岡市立国吉義務教育学校			
水見市	水見市立朝日丘小学校	水見市立比美乃江小学校	水見市立窪小学校	水見市立湖南小学校
	水見市立上庄小学校			
砺波市	砺波市立出町小学校	砺波市立砺波北部小学校		
南砺市	南砺市立利賀小学校			

◆審査員一覧

水上 義行 富山国際大学子ども育成学部客員教授

仲井 文之 富山国際大学子ども育成学部教授

岩崎 直哉 富山国際大学子ども育成学部講師

宮城 信 富山大学人間発達科学部准教授

鈴木 敬子 元射水市立作道小学校長

安元 恵子 元高岡市立東五位小学校長

牧野 宇子 元富山市立四方小学校長

城岸 毅 元南砺市立井波中学校長

河田 新子 元射水市立放生津小学校長

◆後援団体一覧

富山県教育委員会

富山県小学校長会

富山県小学校教育研究会

富山県PTA連合会



清流環境歷史賞

低学年部門

最優秀賞

イタイイタイびょうしりょうかん にいて

富山市立芝園小学校 一年

鰐川^{わにかわ}
絢^{あや}

わたしは、イタイイタイびょうしりょうかんについて、イタイイタイびょうのことをはじめてしりました。カドミウムでじんずう川のみずがよごれ、そのみずでそだったさかなや、こめをたべた、たくさんのひと

が、びょうきになりました。

わたしは、ごはんをたべると、げんきになれるとおもっていたので、ごはんをたべてびょうきになるなんて、とてもこわいとおもいました。

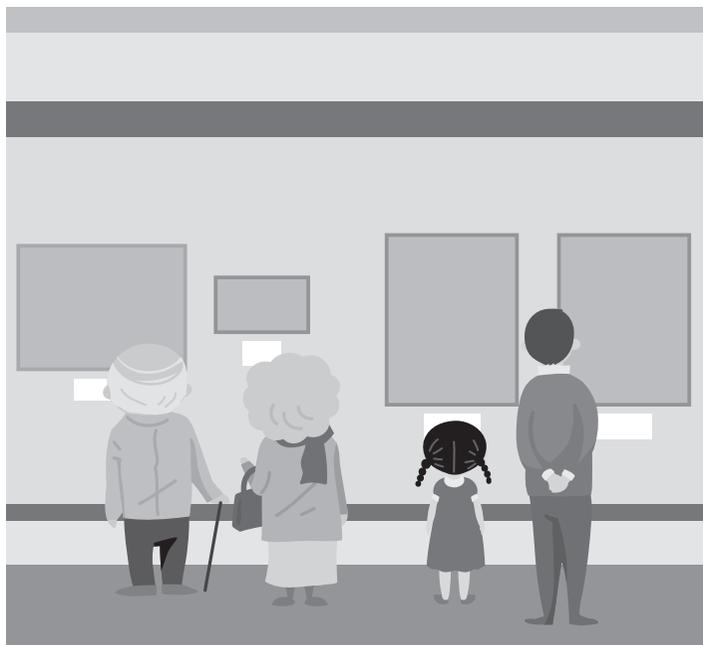
しりょうかんで、ほねのもけいもちあげました。すかすかになったほねは、かるくてびっくりしました。かんじゃさんは、ほねがもろくなるので、せきをしただけでこっせつしてしまうそうです。

わたしも、ころんで、うでをこっせつしたことがあります。いたくて、よるもねむれませんでした。かんじゃさんは、ずっと、このいたみがつづくのです。とてもつらいだろうとおもいました。

いちどよごれてしまったつちは、もとはもどせないこともしりました。きれいな、のうちにするのは、とてもたいへんです。

わたしは、イタイイタイびょうのことを、みんなに

つたえたいです。あんなごほんを、おなかいっぱい
いたべられるように、みんなでしぜんをまもっていき
たいです。



低学年部門

優秀賞

きょうしゅうのびょうき

富山市立芝園小学校 二年

上原 うえはら
紫道 しじょう

テレビのニュースで、イタイイタイびょうを聞いて、
なんだろうなと思いました。

おばあちゃんに、

「イタイイタイびょうってなあに？」

と、聞いたら、イタイイタイびょうしりょうかんにつ

れて行ってくれました。

神通川上りゆうからながしたカドミウムがげんいで、めいじのおわりごろに、川が白くにごったり、魚がういたりしました。水道がないので、神通川の水をくらしにつかっていたため、とくに、三十五才から五十才くらいの女の人びょうきになりました。ある女の人、ぼくと同じ年くらいの子どもが、三人いるお母さんでした。ぼくのお母さんだったら、かなしいし、なおしてあげたいです。

せきやくしゃみでほねがおれたり、しんさつでもおれたりしたそうです。イタイイタイと言いながら、なくなっていくと知り、おどろきました。

かんびょうしていた人は、さわることもできず、たいへんだったと思います。ぼくだったら、はげますことしかできないので、いろいろなことを知ったら、かなしい気もちになりました。

もう二どと、だれもこんなびょうきにならなければ
いいと思いました。



* 中学年部門 *

最優秀賞

イタイイタイ病について 調べたこと、考えたこと

富山市立新庄北小学校 四年

加藤 かとう
建志 たつし

先日、ぼくが婦中町の辺りを通っていると、「土地改良記念碑」と書かれた石碑が立っていました。

父に聞くと、「これは昔、神通川ぞいに広がったカドミウムに汚染された土地をすべて入れかえた時のも

のだよ。」と教えてくれました。「カドミウム」は、現在でも電池や合金、黄色の絵の具、家電せい品などに使われていますが、毒性のある物質です。なぜ、カドミウムが、この辺りの土地に広がったのでしょうか。

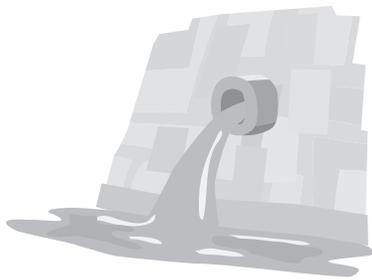
もともとは、実り豊かだった神通川流域でしたが、明治時代の中ごろから、イネの育ちが悪くなったり、川の魚が死んだりするようになりました。やがて、今から百年ほど前の大正時代になると、原因不明の病気に苦しむ人々が、現れるようになりました。はじめは、腰や肩、ひざなどの関節が痛くなり、さらに病気が進むと、ほんの少し、つまずいて転んだり、くしゃみをしたたり、笑ったりしただけでも骨折しました。この病気にかかった人が、「イタイ、イタイ」と言って苦しむことから、「イタイイタイ病」と名付けられました。

原因は、神通川の上流にある神岡鉾山から産出される亜鉛や、鉛の精錬過程で生じるカドミウムを、神通

川に排出したことでした。当時は、「公害」というものに対する社会の意識が低かったために、人体に有害なカドミウムをきちんと処理することなく、工場から神通川へ流していました。神通川の水は、農業用水や生活用水として使われていたため、流域に暮らす人々が毎日、飲み水やお米、魚を口にすることで、カドミウムが体内に蓄積された結果、腎臓の機能に障害を起こし、骨をつくるために必要な栄養素が流出することで、骨がもろくなり、小さな力でも簡単に骨折するようになったのです。また、国が公害だと認めるまでに長い年月がかかったために、大勢の人が長く苦しむことになったのです。

今回、ぼくは、イタイイタイ病のことを初めて知り、とてもこわいと思いました。そして、このようなことが、二度と発生してほしくないと感じました。「公害」は、正しい知識や倫理観をもつことで、防ぐことができ

きるものです。一時の便利さだけで目を向けるのではなく、自分たちの生活環境が、いつまでも、美しいままであり続けるために、自分たちが暮らす、富山県で起きた公害について、身近な問題としてこれからも勉強を続け、だれもが苦しまず、幸せに暮らせる富山県になるように、行動していきたいと思います。



* 中学年部門 *

優秀賞

取りもどした美しい水と大地

氷見市立湖南小学校 四年

浦野^{うらの}
悠愛^{ゆあ}

「イタイ、イタイ」と苦しむ声。富山平野中央部を流れる神通川に起きた、日本四大公害病の一つであるイタイイタイ病は、「イタイ、イタイ」と泣き叫ぶ声から名前が付いたそうです。

人々は、昔から神通川の水を農業や漁業、生活用水

として大切に使い、神通川と深く関わりながらくらし
ていました。

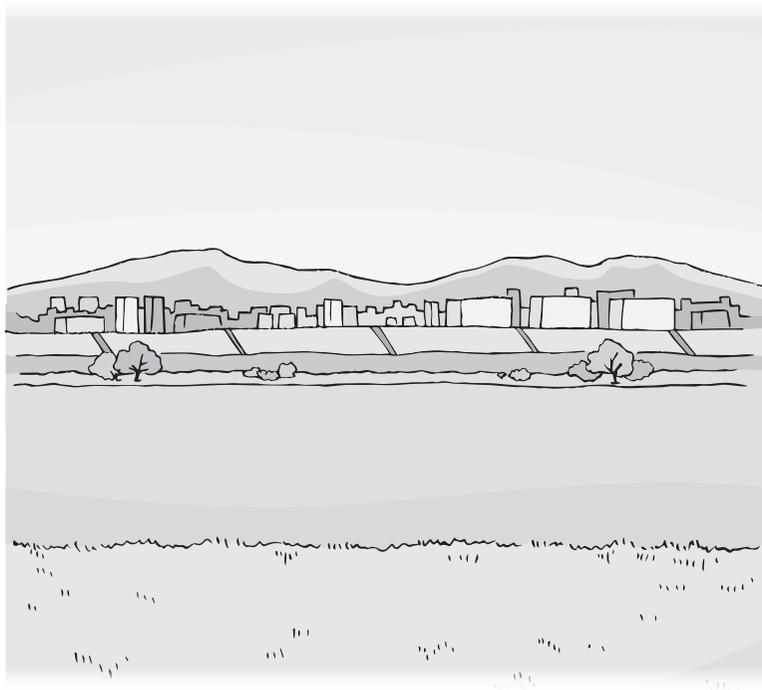
実り豊かな神通川流域に、明治中頃から異変が現れ、
いねの生育不良などの農業被害が、目立つようになり
ました。やがて、大正時代には、神通川の中下流域に、
全身がはげしく痛む原因不明の病気が現れ始め、ねこ
んでからも、意しきがあるまま、「イタイ、イタイ」
と苦しみ、食事も取れずに弱って、死をむかえる、一
度かかると治らない奇病として、住民におそれられて
いました。この病気は、息をすうとき、針千本か二千
本でさすように痛いそうです。

時間が経ち、地元の医しが十年研究して、病気の原
因が、神岡こう山から排出されたカドミウムと分かり
ました。長い間苦しんできた住民たちは団結し、健康
ひ害かい決を求め、裁判を起こしました。裁判は住民
が勝ち、ひ害者を助けていくことと、失われた農地を

取り戻すための約束を交わしました。

イタイイタイ病裁判が終わってから今日まで、五十年経った今も、毎年続けられている、神岡こう山への立入調査などの発生源対策が、住民たちにより行われました。こうしたど力が長年続けられてきたことで、神通川とその流域は、かつての美しいすがたを、取り戻していきました。

わたしは、今回イタイイタイ病を調べることで、とてもこわい病気だと、初めて知りました。当時は、川の水がおかしいと思っても、川の水を使わないわけにはいかなかったことや、原因が分からないおそろしい病気で、患者はもちろん、風ひょうひ害で家族も苦しんだこと、原因が分かって今日まで、ひ害者と原因を作った会社、富山県みんなで力を合わせて、病気の辛さをこくふくし、美しい水と大地を取り戻してきたことを、わすれてはいけけないと思いました。



* 中学年部門 *

優秀賞

おそろしいイタイイタイ病

富山市立新庄北小学校 四年

黒田^{くろだ} 幸愛^{さくら}

イタイイタイ病は、富山県の神通川流域で起きた、日本の四大公害病の一つです。患者が「イタイ、イタイ」と泣きさげぶことから、「イタイイタイ病」と名づけられました。

大正時代、この地域に住む三十五〜五十さいの女せ

いに、病気がはやりはじめました。最初は、こし、かた、ひぎ、やがて太ももやかたからひじに、しんけいふうのようないたみがあり、病気が進むと、少し動いただけでもこっせつしたり、ズキズキとしたいたみでたりしました。その中に、病気がひどくなると、くしゃみをしただけでこっせつしたり、ほねがつぶれて、三十センチメートルもちぢんだりした人もいます。患者の九わりが、女せいでした。

地元のはぎ野医しは、患者をすくおうと、十年間も研究をしました。国でも研究が行われ、イタイイタイ病の原いんが、神通川上流の神岡こう山から流れでる、カドミウムであることが分かりました。昔は、今みたいに、水道がなかったので、神通川の水をくんで、家のため、それを生活用水として使っていました。神通川の水が、カドミウムにおせんさされていると知らずに、使っていたので、イタイイタイ病になったのです。

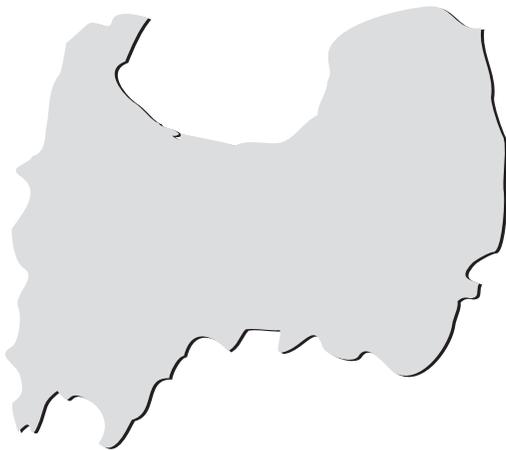
カドミウムは、自ぜん界にあるものですが、人の体

山を守っていききたいです。

に入るとじんぞうの働きをさまたげてしまい、ほねがもろくなってしまう。しかし、なぜ、カドミウムがそうさせるのかは、今も、研究が続けられています。

イタイイタイ病について調べて思ったことは、とてもおそろしく、こわい病気だということです。また、約十年前に、ようやく、おせんされた農地の土じょうふく元工事が、終りようしたことにもおどろきました。長い時間かかって、大へんな作業だったと思います。ひがい者と原いんを作った会社と、富山県のきょう力で、美しい水と大地をとりもどしてきたこと、イタイイタイ病のおそろしさは、ぜったいに、わすれてはいけないと思いました。

これから、同じようなことがくり返さないように、わたしもかんきょうのことを考えて、みんなが、健康で安心してくらしていけるように、まずは、身近な富



* 中学年部門 *

佳作

イタイイタイ病のことを知ろう

富山市立堀川南小学校 三年

小橋 こばし 晟 じょう

「イタイイタイ病ってなんだろう。なんか、痛そうだな。」

お姉ちゃんが、校外学習でイタイイタイ病資料館へ行くときに、そんな話をした。イタイイタイ病が何か、知らなかったし、何をしに行くのかも、よくわかって

いなかった。近くにいたお母さんに、

「図書室で調べてみたら。」

と言われて、学校の図書室へ行ってみた。そうしたら、図書室の先生が、パンフレットをかしてくれた。

イタイイタイ病は、富山で発生した公害病で、ぎふの神岡こう山から、カドミウムという物しつが流出し、それが、神通川に流れ出して起こったそうさ。

「神通川ってあの神通川？本当にそんなことがあったん？」

すぐ近くだから、おどろいて聞いてしまった。今は、ファボーレや病院や、家がたくさんあるところだけでなく、汚せんされたことで、何十年も大変な思いをしてきたらしい。まったく想ぞうできない。でも、それは、想ぞうできないほど、色々な人ががん張ってきれいにしたということだ。

イタイイタイと苦しむから、イタイイタイ病という

くらい、患者さんはくしゃみをするだけでもすごい痛みだという。そして、すぐに骨折してしまいうらしい。ぼくは最近、転んでねんざしたとき、けっこう痛かった。その何百倍、何千倍も痛いということだ。こわすぎた。そんな病気に、今も苦しんでいる人がいる。すぐく昔の話ではなくて、今も続いていることに、おどろいた。また、そこで作った米は、食べることができず、土がきれいになるまで、何十年もかかったらしい。せっかく作っても、工業用ののりを作る材料になっていたのだ。一生けんめい作った米が、食べられないのも悲しかっただろうな。ぼくは、家で野菜を育てている。今年は、初めてレタスを植えてみた。お母さんと一緒に、種から植えて、水やりをして、収かくして食べるときはすごくうれしかった。米を作る人たちも、そんな気持ちでいると思う。一度汚れてしまった土をもとに戻すのはとても、大変なのだと思った。



校外学習から帰ってきたお姉ちゃんに、どうだったか聞いてみた。なんかすごくて、勉強になったと言って、パンフレットを見返していた。ぼくたちが住んでいる富山で、こんな大変なことが起きていたことにおどろいた。ぼくも、高学年になったら、校外学習でイタイイタイ病資料館へ行く。それまでに、もっと調べようと思う。イタイイタイ病について知ることができてよかった。

* 中学年部門 *

佳作

イタイイタイ病を調べてみて

富山市立新庄北小学校 四年

山崎 やまざき
雅治 まさはる

先日、ぼくは、イタイイタイ病被害者団体による、
鉱山施設の立ち入り調査が行われたというニュースを
見ました。調査は、イタイイタイ病裁判に勝訴し、控
訴審でも勝訴した、そのあとに結ばれた公害防止協定
にもとづいて行われていて、今年で五十回目というこ

とです。

ぼくは、イタイイタイ病という名前のほかは、何も
知らなかったので、イタイイタイ病のことを調べてみ
ようと思いました。

イタイイタイ病は、カドミウムという金属によって
引き起こされる病気です。イタイイタイ病の原因は、
神通川上流にある神岡鉱山の亜鉛を、とり出すときに
発生したカドミウムでした。このカドミウムが、神通
川へ流れ出たことで、川は汚染され、川の水を引いて
いた農地も、汚染されてしまいました。その農地で育つ
た農作物を食べたり、汚染された川の水を飲んだりし
た人が、イタイイタイ病になってしまったのです。

イタイイタイ病にかかると、最初は、腰や肩、ひざ
などが痛みます。やがて、針をさすような痛みが全身
に広がって、少し動いただけで骨が折れたり、背がち
ぢんだりして、寝たきりになってしまいます。カドミ

ウムが体内にたまることで、腎臓の働きが悪くなり、強い骨を作るのを助ける働きが妨げられて、ちょっとしたことで、骨がかんたんに折れるようになってしまいました。最後は、息をするだけでも痛く、布団が、体に当たっただけで骨折してしまい、「痛い。痛い」と泣き叫びながら、亡くなる人がたくさんいました。

イタイイタイ病を調べて、ぼくは、魚がいるきれいな神通川、その周りの豊かな緑がある自然や水田風景は、ずっと変わらずあったわけではないことを知りました。神通川が汚染され、周辺に住む人たちが、苦しみながら命を落としたこと、神通川や農地をきれいな状態にするために、多くの人の労力と、およそ、百年もの長い時間がかかったことを、ぼくは忘れてはいけなないと思いました。もう、このようなことは、絶対に起きてほしくありません。

授業では、プラスチックごみが、環境や人体に悪い

影響を与えるということを学びました。清流を守るために、ぼくはプラスチックごみを減らす努力をし、落ちているごみ拾いをしていきたいです。



* 高学年部門 *

最優秀賞

イタイイタイ病をみんなに知って もらいたい！

氷見市立上庄小学校 五年

道淵 みちぶち
瑚子 ここ

「イ病って何?」

私が、新聞にあった記事を見て、まず、思ったことです。どんな病気なのか、想像もつきませんでした。少し分かったことは、私たちの住む富山県に、ゆかり

のある病気だということでした。どんな病気なのか、気になったので、調べてみることにしました。

まず最初に、イ病関連の新聞記事をスクラップし、ノートにまとめてみることにしました。

特に印象に残った記事は、当時の患者さんの言葉、「死が楽であるなんて」という見出しです。生きていくことが苦痛であるという言葉に、しょうげきを感じました。今の自分には、想像もできない痛さだったと思います。そして、苦しむのは患者だけではなく、その家族も、不安、葛藤、経済的な困窮、そして周囲からの差別と偏見をともなっていたことが分かりました。

当時は、未知の病気と言われていたイ病と、現在、コロナ禍においての状況は、共通の差別や偏見があると思いました。

次に、イタイイタイ病資料館、さらに、神岡鉱山資料館に行き、学習してみました。資料館に

行く途中に、神通川を通って、あんなにきれいな川に、
どうして、イ病が発生したのか、不思議に思いました。

神通川は、昔から「神が通る川」とも言われていた
そうです。その下流では、おいしいお米が作られ、鮎、
サケ、マスなどが、たくさん捕れる川でした。この川
に、まさか毒物（カドミウム）が流れてくるなんて、
当時の人々は、夢にも思わなかったと思います。水道
が、各家庭に引かれる昭和三十年以前には、神通川の
水を引いた農業用水から、各家の台所に、水を引き込
んで、その水で野菜を洗ったり、ご飯を炊いたり、生
活用水として使うのが、普通のことでした。

神岡鉱山資料館では、戦時中に増産されていた亜鉛
や、鉛の製造工程を見学できました。その工場排水に、
イ病の発生原因であるカドミウムが、含まれていたの
です。当時の未知の病について、諦めず原因究明した
萩野医師や、研究者たちに誇りと尊敬を感じました。

最後に、調べたことをみんなに知ってもらいたいと

思い、夏休みを利用して、パネルを作成してみました。
題は、「私のイ病研究室」です。クラスメイトには、
私と同じ疑問を持った子がたくさんいると思ったから
です。四大公害病についても調べてみました。

また、原因金属であるカドミウムについても詳しく
調べてみました。今年は、患者が三井金属鉱業に賠償
を求めた訴訟で、勝訴してから五十年目の節目である
こと、現在の問題点としてカドミウム腎症患者を救済
する制度がある一時金支給の未支給者は、推計で、百
人以上いることなども紹介しました。イ病は現在も続
いていて、まだ終わっていないと感じました。イ病の
恐ろしさ、怖さをもっといろんな人に知ってもらい、
もう二度と、このような公害を繰り返さないようにし
たいです。

そして、美しい富山の自然や豊かな環境を未来に残
すため、SDGsや環境問題についても身近な課題と
して考えていきたいです。

* 高学年部門 *

優秀賞

大勢の人々の努力で存在する今

富山市立宮野小学校 六年

稲場 慧吾

イタイイタイ病は、過去に多くの苦しみと悲しみをもたらした病です。しかし、今の神通川は、イタイイタイ病の原因となった、カドミウム濃度の基準を大きく下回っています。なぜ、イタイイタイ病は終息したのか、それは、多くの人々の努力があったからです。

一つ目は、原因を解明しようと研究を続けた萩野昇医師の努力です。まだイタイイタイ病の原因が不明で、何も分からなかったころ、医師の萩野昇さんは、「原因を解明して、イタイイタイ病を終息させたい」と思い、患者を病院に入れて、介護と研究を進めました。けれども、病院にイタイイタイ病患者がいると知った人々は、病院にいやがらせをしました。それでも、萩野昇医師は、原因解明に向けて研究を続け、イタイイタイ病の大きな一歩となりました。ぼくは、「どうしていやがらせに目を向けず、原因解明だけに力を尽くしたのだろう」と思いました。それは、「自分の住む県の病をなくしたい」という思いだったと考えます。

二つ目は、裁判のきっかけとなった小松義久さんの努力です。企業がカドミウムを流していることを認めないため、最後の手段として、裁判を起こし、患者の思いを伝えるために患者の家を回りました。裁判を起

こすと知った住民は、「米が売れなくなったらどうする」などといった批判の声を、小松さんにふりそそぎました。しかし、小松さんは、あきらめずに裁判を起こし、勝訴することができました。「どうして批判の声をあびても、あきらめなかったのだらう」と思いました。それは、「母を失った悲しみを、これ以上多くの人に味わってほしくない」という強い信念を持っていたからだと思います。

三つ目は、現在も続く、対策を行う人々の努力です。勝訴してから五十年経った今でも、企業への立入調査や、神通川の水質検査を行っています。「どのような思いで行っているのか」と考えました。それは、「昔の苦しみを現在の人々にも味わってほしくない」という思いだと考えます。

多くの事実を学んで、イタイイタイ病を終息させたいと思う人々の努力はとてもほこるべきものだと思います。

ます。イタイイタイ病を終息させるためにがんばった努力、もう二度と起こさせないために再発防止に取り組む人々の努力を、決して忘れてはいけなさと考えます。昔に起こった苦しみや悲しみ、いかりや努力というものを、今もこれからも、忘れず考え続けることが、今を生きる人たちの使命だと考えます。

先人が多くの人と協力して、企業に打ち勝ったように、ぼくも、人と協力することや努力することを大切にして生きたいです。

このように生きることが、先人の残したかったものであり、企業と闘った人の思いに応えることだと考えます。

* 高学年部門 *

優秀賞

イタイイタイ病を知って

富山市立新保小学校 六年

松井 秀落

ぼくのひいひいおばあちゃんは、イタイイタイ病の患者だった。まさにそれは、生き地獄だったそうさ。

最初の方は、足に針で突くような痛みが現れ、その十年後からは、入退院を繰り返した。だが、治療の効き目は全くと言っていいほどなく、症状は悪化するば

かりだった。ひいひいおばあちゃんは、死と同様の苦しみからのがれるために、死のうと考えた。でも、動けば痛い、息を吸っても痛いがために、じっと泣いているしかなかった。入院が長期化する中で、たまに家に帰ってきても、一服茶屋にいるような居場所がない感覚におそわれていた。

死ぬことを考えるほど、痛みからのがれる手段はなかったのか。患者のみんながこんな思いをしていたと考えたら、胸が痛くなった。

そもそも、なんでこんなことが起きたのだろう。神の川と言われる神通川。それは豊かな水で、魚もたくさんいた。江戸時代に用水路が作られた。飲み水や洗濯にも使われていた。明治の中ごろ、用水路の水がにごっているのに気が付いた農民は、大水のせいだと、気にしていなかった。

だが、これが事件の始まりだった。そのにごりは、

ちんでん池でもとれなかった。その水を吸った稲は、成長がおそくなった。そんな出来の悪い米は、自分の家で食べるしかなかった。

すると、三十五才すぎの女性が謎の病におそわれた。これがイタイイタイ病だ。農民にとっては働き手を失うというたいへんなことだった周りの住民は、「人生のばつ」だとか、「そういう運命」だといわれていたそうだ。苦しい思いをしているのに、そんなことを言われる患者さんはかわいそうだと思った。

イタイイタイ病の原因は、神通川の上流にある、神岡鉱山から流れでた鉱毒の混じった水だと分かった。イタイイタイ病は「カドミウム」という金属が、人の体にたまっていき、じんぞうの働きを悪くさせることで起こる病気で、少し動いただけでも、骨が折れたり、背がちんだりしてしまう。「いたい、いたい」と泣きさけびながら亡くなっていく患者がとてもかわいそ

うになった。

知れば知るほど、おどろくことがたくさんあった。イタイイタイ病の怖さも知った。患者と家族の苦しみも知った。これをきっかけに他の公害病も調べてみたいと思う。



* 高学年部門 *

優秀賞

川の水がおこした悲げき

富山市立鵜坂小学校 五年

水本 みずもと
帆香 ほのか

わたしは習い事に行くとき、いつも、神通川の上にかかっている有沢橋を通ります。きれいな川を見て、富山の自まんだなと思っていました。でも、それは四年生までで、五年生になって、「イタイイタイ病」を知ってからは、見る目が変わりました。

カドミウムをせっ取しただけで、かんたんに骨折したり、ふとんをかぶるだけでも体がいたくなるなんて、ひどい病気だなと思いました。しかし、この病気は、家族も大変です。かん病のため、農作業の働き手がへり、医りようひもかさむため、経ざいにきびしい生活をしなければなりませんでした。

ひ害は他にもあります。かん者のいる家に入るだけで、「病気がうつる」と言って近づかなかったり、およめが来なくなったりしたので、雨戸をしめきってかん者をかくしたりしました。わたしは、こんなにかん者も家族も苦労しているのに、まわりの人が差別することにもむねがいたくなりました。こんなことがあってはならないとも思いました。

病気の原因が、三井金属鉱業の神岡鉱業所から出されるカドミウムだと分かり、住民たちは立ち上がりました。対さく協議会を結成するなんて、すごいなあと

思いました。しかし、ほしように要求に対して、会社は、「お金をはらわない」と伝えたのです。そのことに住民はとてもおこり、さいばんを起こしました。わたしもこの対応に、思わず心の中で、「ゆるせない！」とさけんでいました。そして、住民の行動にとても感心しました。

さいばんは、公害さいばんとしては初めて、ひ害住民側が全面勝利しました。わたしも、とてもうれしかったです。取り決めが行われてから、三井金属鉱業は二百億円以上かけ、公害防止に取り組んできました。わたしは、大変な汚染土じょう復元作業などをしっかりやっていることが素晴らしいなと思い、安心しました。

わたしがおどろいたのは、神岡鉱山への立ち入り調査が五十年以上たった今でも、毎年一回、行われていることです。最初は、やる意味があるのか分からなかつ

たけど、よく考えたら、わたしが神通川のそばに住んでいたら、今も安心できていないだろうなと思えました。立ち入り調査はとても重要だなとも思いました。

イタイイタイ病はまだ終わっていません。現在も立ち入り調査が続いているし、周辺に住む人の中には、まだ不安がある人がいるかもしれません。「ふうん。そうだったんだ」だけで、忘れてしまうようでは意味がありません。

今回調べたことを忘れずに、いろいろな人と話し合ったり、わたしたちが大人になったとき、自分の子どもに話したりして、イタイイタイ病は終わっていないということを伝えていきたいです。

* 高学年部門 *

優秀賞

人々を苦しめた差別と偏見

富山市立宮野小学校 六年

宮田 みやた
藍璃 あいらり

「どうしても、イタイイタイ病は、かん者やその家族を、心身ともに苦しめたのだろう。」

これは、私がイタイイタイ病をくわしく調べていく中で、強く思ったことだ。私がイタイイタイ病をくわしく調べようと思ったきっかけは、学校での調べ学習

だった。学習発表会でイタイイタイ病のことを発表するため、イタイイタイ病を、もっとくわしく知ろうと思ったからだ。イタイイタイ病について学んだことは、イタイイタイ病は、身体的な痛みだけではなく、心も苦しめたということだ。

私がこのことを学んだのは、語り部の小松さんが、講演の際に言っていたある言葉がきっかけだった。それは、「イタイイタイ病はかん者の身体の痛みだけではなく、そのかん者や、かん者の家族が受けた地域の人からの差別や偏見による心の痛みもあったんです」という言葉だ。この言葉を聞いて、私は、身体の痛みだけでもつらいのに、心まで苦しめられたかん者や、病気にかかっていなくても、つらい思いをしている家族のことを、とてもかわいそうだと思った。また、どうして地域の人は、差別や偏見をしたのだろうと考えた。私がこのことについて考え、出した結論は、地域

の人は、イタイイタイ病の原因が分からず、不安な気持ちから、イタイイタイ病はうつる病気なのではないかと思ひ、差別や偏見や正しくないというわさを流してしまつたのではないか、ということだ。

この結論から、地域の人の不安な気持ちから、患者やかん者の家族の心を、傷つけてしまつたことに、私は、不安だからと、うわさを流すのはよくないと思つた。まちがえた情報を流すと、新たな誤解と不安を生んでしまうからだ。差別や偏見がおさまらなかつた理由の一つは、繰り返し差別や偏見をすることで、不安な気持ちが増したからだと思つた。差別や偏見は、次第にひどくなり、イタイイタイ病の解決に向けて努力していた人の、命をおびやかすようにもなつていった。

これからのことを調べて、私は、差別や偏見のおそろしさ、また、心身ともに傷つき、苦しんだイタイイタイ病かん者の切ない思ひを知り、イタイイタイ病は

かん者だけが苦しんだ病ではないことを学んだ。

これからの私の課題は、二度と公害病を起こさないために、自分自身に何ができるかを考え、実行すること、また、差別や偏見のおそろしさ、にくさをイタイイタイ病の長い歴史とともに、次の世代に伝えていくことだと考へた。差別や偏見は、だれか一人だけが気をつけられなくなるものではない。

だからこそ、一人一人が、差別や偏見について考へ、そのことをイタイイタイ病がもつた生じた差別や偏見と重ねて、深く考へていかなければならない。私は、これからもそのことを伝え続けていく。

* 高学年部門 *

佳作

人々の生活をうばった
イタイイタイ病

富山市立大久保小学校 五年

伊藤 姫花
いとう ひめか

私は、初めて、イタイイタイ病というおそろしい病
気を知りました。

イタイイタイ病とはどんな病気だろうと思ひ、イタ
イイタイ病資料館へ行ってきました。

そこには、当時の生活を再現したジオラマや、さわつたり、のぞいたりできる展示物、大型スクリーンでの立体感あふれる映像などがありました。イタイイタイ病は、神通川流域に広がり、他の地域では見られない不思議な病気でした。体中が痛くなり、骨が折れてしまい、最後には息をするのも痛くなり、「いたい、いたい」と言いながら亡くなってしまい、誰にも理由が分からないおそろしい病気でした。さらに、神通川の豊かな水を利用した稲作も育たなくなり、農業もできなくなってしまう、神通川流域の人々の暮らしは貧しくなっていました。

なぜ、神通川流域だけでこんな現象が起きているのか。大きな疑問を持って研究を始めた方がおられました。婦中町の萩野博士という方です。萩野博士は、神通川の上流で何が起きているのかと考え、神通川上流の岐阜県の山奥にある神岡鉦山で、亜鉛を発掘している所にたどりつきました。

そこで、亜鉛に含まれているカドミウムが溶け出し、神通川の上流に流れ出しているということが分かり、このカドミウムが原因で、不思議な病気が発症しているのではないかと考えて、多くの水質検査や研究を行いました。その結果、「イタイイタイ病は、カドミウムが原因である」ということをつきとめました。

イタイイタイ病は、産業開発のために、川が汚染されたことが原因だったのです。暮らしを豊かにするはずの産業開発が、私たちの生活をこわす原因になっていることにとても悲しくなりました。人々の生活にかかせない用水であり、豊かな農業を営むことができ、神様の贈り物とされた川が、汚染されてしまったことが残念で、くやしい気持ちになりました。現在は、カドミウムで汚染された土地を元の健全な土地に戻すため、汚染された土を穴の中にとじこめて、その上から新しい土をかぶせるという工事が行われています。そのため、雨が降ってもカドミウムが流れ出さないよう

なっています。

また、生活用水も水道の水に変わり、カドミウム汚染の原因であった亜鉛工場からのカドミウムの流出もなくなりました。

あらためて思うと、環境汚染とは、何年も何十年もかかって、少しずつ私たちの体におよぼし、美しい自然もこわしていきます。美しい自然はすぐに直すことはできません。人間の体もすぐには治せません。いろんなことが発達している現代でも、いつかまた、このような公害が起こるかもしれないと思うと不安になりました。

これから先、また、人々の生活をうばってしまわないためにも、一人一人が自覚を持って、少しでも川を汚さないよう努力をしなければいけないと思いました。

* 高学年部門 *

佳作

萩野医師について

富山市立草島小学校 五年

小川 おがわ
央翔 ひろと

ぼくは、五年生の学習で、イタイイタイ病のことを初めて知りました。どうしてそのような病気が流行ったのか、気になって調べてみると、いろいろなことが分かってきました。その中でも、イタイイタイ病の原因が、カドミウムだったことをつきとめた医師につ

いて、興味をもちました。

調べてみると、その医師の名前は萩野昇さんでした。七十五年前、萩野医師はイタイイタイ病の研究をはじめ、その十一年後、鉛や亜鉛などが原因だと疑いました。さらに、三井金属鉱山神岡鉱業所から出されたカドミウムが原因だと分かりました。カドミウムは、川や農地を汚染し、水や農作物をとり続けた人たちに病気が広がっていきました。症状は、こしや肩、ひざの痛みから始まり、さらに病気が進むと、少し動いただけでもすぐに骨が折れるようになってしまいます。

もし、ぼくがこの時代にいたら、野医師がイタイイタイ病の研究をしてくれるだけで、少し安心します。自分がイタイイタイ病になったとしたら、不安で不安で寝ることもできないと思います。なぜなら、原因がわからないので、治療方法もわからないからです。それに痛みも強いと知ったので、自分なら耐えられない

と思います。

しかし、当時の住民は萩野医師を「田舎医者に何が分かる」などと、批判したそうです。ぼくだったら安心すると言ったけれど、批判していた人の気持ちも分かります。なぜなら、自分や家族の病気がほかの人に知られると、流行り病と言われて偏見をもたれたり、差別されたりするからです。

それでも、萩野医師が研究し続けたことをそんけいします。自分なら心が折れて、研究をやめてしまいうです。その後、萩野医師の研究のおかげで、カドミウムが原因だとわかりました。イタイイタイ病になった人やその家族は、とても救われたと思います。三井金属鉱業との裁判も戦いぬいた住民たちは、「かん者に対する損害ばいしょう」「汚染土壌の復元」「公害防止」の三つの約束を被害住民と三井金属鉱業と約束しました。

今後このような公害が起きないために、工場や会社などは発明することも大切だけど、責任をもって処理して人や環境に被害がでないようにしてほしいです。そして、ぼくは、医師になりたいという夢をもっともっていただけけれど、萩野医師のことを知ってもっとその気持ちが強くなりました。萩野医師のようになれるよう勉強をがんばっていききたいです。



* 高学年部門 *

佳作

未来へ伝えていこう

富山市立堀川南小学校 六年

小橋^{こばし} 菜々実^{ななみ}

「イ病勝訴五十年」。

ある日の新聞で大きな文字が飛びこんできた。今年
は、患者らが原因企業に賠償を求めた訴訟で、勝利を
得てから五十年。歴史の教訓、未来開くという大きな
文字に強い思いを感じた。

イタイイタイ病は、富山県の神通川流域で起きた公害病で、四大公害病の一つ。この病気は、大正時代頃から発生し、神岡鉦山（岐阜県飛騨市）から排出されたカドミウムが、神通川の水や流域を汚染し、この川水や汚染された農地に実った米などを通じて、体内に入ることで引き起こされた。これは、学校で習うので大体の人が知っていると思う。これまでに県が認定した患者数は二百人。カドミウムを体内に取り込むことで、腎臓障害を起こし、骨軟化症にいたるのが発症のメカニズムだが、認定されなかった人もいる。現在の生存者は一名。今も苦しむ人がいるのだ。

被害が大きかった婦中町は、開発が進み、今では人気の地区となっている。私も小さい頃に住んでいた。神通川では、毎年、鮎釣りをしている人がおり、景色もきれいだ。そして、公園になった場所でスケートボードを練習していたのが、銅メダリストの中山選手なの

だ。大型ショッピングモールができ、住宅が増え、大きな病院も建設された。過去のことだが、想像できないくらい整備された場所になっている。

汚染されていたことを知る人が減っていく中で、まずは、そこに住む私たちが正しく知り、伝えていかななくてはいけないと思う。激しい痛みに耐えるしかなかった人々とその家族のこと。遠い昔のことではなく、水質改善や汚染された農地を復元するために、三十年以上かかっていることなどだ。この期間、お米を作っても食えることができず、工業用としていたそうだが、汚れた土壌を安全なものに戻すために、これほどの時間がかかるのだと知って驚いた。私の学校では、去年校外学習でイタイイタイ病資料館へ行った。行くまでは、「もうなくなつた病気だし、関係ない」。そんなふうに思っていた。

展示や映像を見ることで、それまでは教科書の中の

出来事だったことが、現実とつながつたような気がした。今でも忘れられないのは、語り部さんの「みんな、イタイイタイ言うてるのを、ただ見とることしかできなかった」という言葉だ。当時の人は、どれだけつらく、嫌な思いをしたのだろう。骨が普通の人と比べて減っているものを見て、違いに驚いた。もし、普通に生活している中で突然こんなことになったら、きっと耐えられない。

富山に生まれ、富山の歴史を近くで学べる私たちは、富山のことをもっと知らなければいけない。知ること、新たな発見や、富山を今より好きになることにつながるのではないだろうか。そして、身近で起こったイタイイタイ病のことを、未来へ伝えていこう。

* 高学年部門 *

佳作

イタイイタイ病はおそろしい

射水市立大門小学校 六年

後藤 ごとう 志歩 しほ

今年が、イタイイタイ病が起こった神通川の水質検査を始めて、五十年になると知りました。そして、どうしてこんなに長い年月をかけて検査しているのだろうと疑問を持ち、イタイイタイ病資料館の夏休み講座に申し込みました。

イタイイタイ病は、神通川流域で起きた日本の四大公害病の一つで、患者が、「イタイ、イタイ」と泣き叫ぶことから、この名が付いたと言われています。この病気は、大正時代から発生しました。岐阜県の神岡鉱山から流れ出た、カドミウムという土や鉱物の中にある金属が、神通川の水を汚染し、この川の水を飲んだり、川の水で育てた米などを食べたりして、引き起こされました。患者はもちろん、その家族や地域の住民たちも、つらい日々が長い間続きましたが、一九七二年、裁判で住民側が勝利し、被害者への賠償、公害防止協定、土壌汚染の復元が、取り決められました。

イタイイタイ病のおそろしさと、その克服の歴史について学び、特に、理解が深まったことが二つあります。

一つ目は、一度壊れた自然は、取り戻すのに時間とお金がとてめかかる、ということでした。土壌復元工

事は、一九七一年から始まり、二〇一二年に終わり、四百億円のお金がかかったそうです。汚染された土は、小学校の二百メートルトラック六千五百八十九面（千六百八十六・二ヘクタール）、東京スカイツリーの約一・三倍（六百三十四メートル）の高さにもなると聞いて、とても驚きました。

公害防止協定ができ、それから毎年、神岡鉱山への立ち入り調査が続いていて、今年がちょうど五十回目になります。ずっと調査を続けているのは、二度とカドミウムを神通川に流さないためのチェックだと分かりました。土壌復元工事により、現在は、カドミウムの値は正常に戻ったけれど、これからも、立ち入り調査を続けて、美しい神通川の水を守ってほしいと思います。

二つ目は、一度壊れた健康な体はもう元には戻らないということです。

九十年前の生活は、水道はなく、川の水を飲み水や

料理、洗たくに使ったり、サケやマスの漁をしたり、用水を利用して米を作ったりしていたので、川の汚染が人間の体に与えた影響は大きかったと簡単に想像できません。今は、いろいろな薬が開発され、痛くなくなっただかもしれないけど、一度壊れた健康な体や腎臓の働きは戻りません。

私が五歳の時に、父は交通事故の被害にあいました。長年病院に通ったけれど、今でも痛みの後遺症に苦しんでいます。

私には、交通事故とイタイイタイ病は、人間がおこした同じ災害だと思えます。

私たちは、誰かの健康な体や明るい未来をうばうことのないように、こんな災害が二度と起こらないように努力し続けなければならないと思います。一人一人が自分のできることから始めていきましょう。

* 高学年部門 *

佳作

公害病防止の第一歩

富山市立杉原小学校 六年

長谷川 瑛美
はせがわ えみ

私は、五年生の時の夏休みの自由研究で、イタイイタイ病について調べました。

このころの私は、イタイイタイ病について、教科書に書いてある、おおまかな内容しか知らなかったもので、「もっとくわしく知りたい」と思い、イタイイタイ病

資料館に行き、イタイイタイ病の症状や、イタイイタイ病の原因となったカドミウムを、神通川に流した工場とイタイイタイ病の患者の家族の裁判の様子や、イタイイタイ病の原因を突き止めた萩野医師についてなど、イタイイタイ病のくわしい内容を学びました。

イタイイタイ病は、神通川の上流にある岐阜県の神岡の工場が、神通川に排水を流していて、その排水にイタイイタイ病の原因となったカドミウムがふくまれており、神通川から水を引いて、米を作って人々が食べることによって、起こりました。

私は、まだこの時代は、水道ができていないと思うので、当時の神通川流域に住んでいた人々にとって、神通川の水は、田に水を引いて米を作ったり、水を飲んだり、台所で食器を洗うなど、生活に深く関わっていたと考えました。

イタイイタイ病資料館に行って、新たに分かったこ

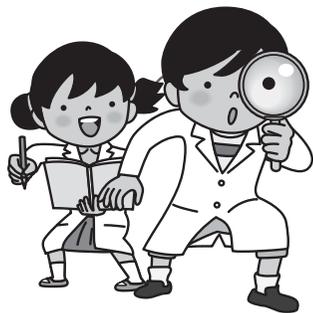
とがありました。それは、私が住んでいる地区にもイタイイタイ病になった人が約十人いたということですから。私の地区は、神通川と西派川にはさまれていて、田んぼがたくさんあります。秋には、米が黄金色に実って、「きれいな色だな」と思い、毎年ながめています。そんなきれいな色の米や米を収かくできる田んぼが、昔はカドミウムがふくまれていたと考えると、とても恐ろしく感じました。

イタイイタイ病について、くわしく学んで、私は、昔から環境の存在を忘れず、環境を大事にしていれば、イタイイタイ病の被害者は一人も出なかったんじゃないかと考えました。

そのことは、今の時代にも言えることで、便利な機械などができ、暮らしが豊かになるのは、よいけれど、やはり環境にも目を向け、美しい環境を守り続ける必要があると思います。そのために、私は、電気や水の

むだづかいをしないこと、自分の住んでいる地域のごみ拾いなど、まずは、身近なことから取り組んでみようと思います。

そして、二度とイタイイタイ病みたいな公害病を起こさないように、公害病を防止する第一歩をふみ出したいです。



* 高学年部門 *

佳作

二つの課題

富山市立宮野小学校 六年

山村^{やまむら} 華帆^{かほ}

私たち宮野小学校の六年生は、イタイイタイ病について調べて、学習発表会で全校のみんなに伝えていきます。イタイイタイ病とは、三井金属の神岡鉱業所という工場が、神通川に流したカドミウムによって汚染された米を、人間が食べたことで発症した病気です。こ

の作文では、イタイイタイ病で亡くなられた患者さんのことや私たちの課題を書きたいと思います。

まず、イタイイタイ病の患者さんのことです。

イタイイタイ病の患者さんと認定されるためには、認定基準を満たさなければなりません。認定されるためには、骨を削らないといけないそうです。このことを知り、私は、「何のための認定基準なんだ」と思いました。語り部の方も、「これほど辛いものはない」とおっしゃっていました。「死んだほうが楽」というイタイイタイ病の患者さんの声を新聞記事で見つけ、悲しくなりました。亡くなられた患者さんを、棺おけに入れるときにも骨が折れたという事実もおそろしく、いたましいことだと思いました。こういった患者さんの辛さを知ったことで、クラスや学年の仲間とたくさんのことを考えました。

そして、私は、最終的に、今後の自分の課題を考え

ました。

一つ目は、「伝える」ことです。

イタイイタイ病の解決に力を尽くしてくださった方々への感謝や苦しみ続けた患者さんへの敬意などを伝えることは大切です。さらに、イタイイタイ病の教訓を、後世へとつないでもらえるよう伝えていくことが課題だと考えました。先日、学習発表会の練習を自分のクラスだけで行うかどうかで、もめたことがありましたが、この経験を通して、みんなにどれだけの熱意があるか分かったのでよかったと思っています。真の語り部には、イタイイタイ病発生当時に生きておられた方しかねないのかもしれないけれど、イタイイタイ病の教訓を伝える活動はできると考えます。

二つ目は、たくさんのことを、「気にかける、気をつける」ことです。

イタイイタイ病も神通川の異変に気づいたときに、

すぐに行動に移すことで、被害をおさえられたのではないかと思います。私はこの二つの課題について永続的に考え、他の人にもつないでいきたいです。

これでイタイイタイ病がどのような病気か、イタイイタイ病がもたらしたきょうふを分かってもらえたのではないのでしょうか。一つ目の課題は、作文を書くことや学習発表会で伝えることで完了するのではないかと思う方もおられるかもしれませんが、それはまだ先です。自分に子供ができたときには、イタイイタイ病の教訓を伝えなくてはなりません。二度とイタイイタイ病のような公害病が起きないように二つ目の課題に取り組みたいです。



清流環境体験賞

低学年部門

最優秀賞

あさがおさいたよ

富山市立草島小学校 一年

松岡 まつおか
勇真 ゆうま

ぼくは、あさがおをうえました。あさがおのたねは、ひとのめより小さかったです。めがでたとき、ハートのかたちがかわいかったです。あとからでてきた、ち

がうはっぱが、かっこよかったです。つるは、うちゅうのいきもののあしみたかったです。つぼみも、なかぐるぐるのたつまきみたいなかたちでした。

はなは、むらさきで、きれいでした。あさがおのはなのいろは、まいにちかわっていったので、すごくきれいでした。

ぼくは、みずやりのペットボトルに、みずをまんたんにいれてあげました。どうしてかというと、あさがおののどがかわいたら、ぼくはとてもかなしいからです。

あさがおって、どんなおもいをしているのかな。よし、きいてみよう。

「あさがおさん、なんでそんなに大きくなったの？」

「だってぼく、あなたにいっぱいみずやりしてもらったから、こんなにいっぱい、はながさいたんだもん。」
あさがおが、どんどん大きくなっていくのがうれしかったです。



低学年部門

優秀賞

わたしのいえのクワガタ

富山市立八幡小学校 一年

中西 なかにし 滯菜 れな

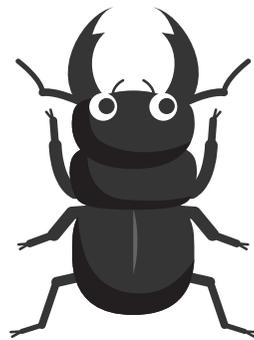
「うわあ。おまえたちくるな。」

よる、おとうさんが、ベランダからおおきなこえで
いいました。わたしはびっくりしました。きたらだめっ
ていわれたので、カーテンのすきまからのぞいてみま
した。

しばらくすると、おとうさんは、くろいむしをつか
まえて、わたしにみせてくれました。ゴキブリかとお
もってにげようとしたら、ノコギリクワガタだとおし
えてくれました。ベランダでタバコをすっていたおと
うさんのせなかに、クワガタがとんでぶつかってきて、
おとうさんも、さいしよは、ゴキブリかとおもってやっ
つけようとしたようです。

いもうとは、むしがだいすきだけど、わたしはにが
てです。でも、うちにとんできたクワガタは、ちいさ
くて、とても、かわいくみえました。さわったら、か
たかったです。つぎのひ、えさとつちとはっぱをかつ
て、むしかごにいれてあげました。うれしそうに、あ
ちこちあるいて、そのあとは、ずっとメロンあじのゼ
リーをたべていました。おなががすいていたのかな。
わたしは、クワガタがなにをしているのかきになっ
て、いつもむしかごをみてしまいます。でも、はっぱ

のしたにかくれてばかりなので、わたしとおなじはず
かしがりやさんです。そんなクワガタが、だいすきに
なりました。



低学年部門

佳作

むしさがし

富山市立宮野小学校 一年

杉本 すぎもと
悠羽 ゆう

ぼくは、せいかつかのべんきょうのむしさがしで、
ばったをつかまえました。

ばったは、グラウンドのくさむらのなかにおいて、ぼくがつかまえようとすると、ぴよんと、とんでにげていきます。ぼくは、ばったに手をかぶせて、いきおい

よくつかまえました。ばったを手でつかむと、てあしをいっしょうけんめいに、うごかしていました。むしかこのなかにいれて、かんさつしました。

ばったは、からだがうすいちゃいろになっています。くさやじめんとおなじいろになって、見つかりにくくしているそうです。

「ばったのなまえは、なんにしよう。」

「むしかこのなかでは、あんまりうごかないね。」

「おうい、ばった。どうしたの。」

ともだちとばったにこえをかけました。

「ばった、知らないかな。」

「そろそろ、にがしてあげようか。」

ぼくは、もっとばったをかんさつしたかったし、おうちにもちかえりたかったけど、ばったもおうちにかえりたいかもしれない…とおもい、つかまえたばしよにかえしにいきました。

「ばいばいばった。げんきでね。またあおうね。」
ぼくは、ばったを見おくりました。



低学年部門

佳作

いしだはまのたからもの

黒部市立桜井小学校 一年

平田^{ひらた}
璃咲^{りさ}

わたしは、いしだはまのちかくにすんでいます。いっ
かげつにいつかいぐらい、あそびにいきます。いしだ
はまは、たからものがいっぱいです。なにかわかりま
すか。おしえますね。

さいしょにしようかいるたからものは、はまひる

がおです。はまひるがおは、あさがおにしているおは
なです。五がつにさく、うすいピンクいろで、とても
かわいいです。いちねんせいのどうとくのきょうか
しょにのっていますよ。

つぎのたからものは、シーグラスです。シーグラス
は、かいがんながれてきたガラスへんです。まるい
かどがあって、しおがふってあるようにみえます。ち
いさいのもあれば、おおきいものもあります。わたし
は、しろ、みずいろ、あお、みどり、ちゃいろのをみ
つけたことがあります。びいだまみたいのがいちばん
すきです。

さいごのたからものは、きれいないしです。たとえ
ば、せきえい、ねふらいと、めのう、ひすいです。い
しだはまにも、ひすいがあるってしていますか。お
とうさんとおかあさんが、ひすいをひろったことがあ
ります。わたしは、おにぎりぐらいおおきい、ねふら

いとをみつけました。そのときすごくうれしかったです。

どうですか。いしだはまのたからものが、おもしろ
そうでしょう。ぜひ、いしだはまにいつてみてください
い。もしかして、ここにかいていないたからものを、
はっけんするかもしれませんよ。



* 中学年部門 *

最優秀賞

おばあちゃんとのボランティア
清そう

高岡市立野村小学校 四年

竹脇^{たけわき} 大晴^{たいせい}

朝五時半に、中川の陸橋で、ボランティア清そを
しました。

ごみの種類は、ペットボトル、空きかん、レジぶくろ、
たばこなどがありました。一番多かったのは、たばこ

です。陸橋で、ごみを集めていたら、おばあちゃんが、
「ぶくろがごみで重くなってきたから、今日は、かた
がわだけにしよう。」と言いました。朝だから、気温
は暑くはなかったです。ごみぶくろ一ふくろと、半分
ほど拾いました。

それから二日後、陸橋の反対がわのそうじに行きま
した。おとといよりも気温は暑くてたいへんだっけ
ど、ごみの量は少なかったです。ごみの種類はおと
いと同じでした。量は、ごみぶくろ一ふくろほどでし
た。

集めたごみを、おばあちゃんと、種類ごとに分けま
した。ペットボトル四十七本、かん十九本、ビン一本、
ライター四個、電池三個、マスク十二枚、たばこ百十
本、プラスチックごみは、かぞえきれないほどありま
した。重さをはかると、全部で七・四キロありました。
それぞれのごみについて分かったことは、一番多いご

みは、たばこでした。アルミかんは、ぺったんこになっていました。電池はさびていました。マスクは砂まみれでした。ペットボトルはたくさんあって、中身がはいっているものもありました。

このことからわかることは、車からごみを投げ捨てている人がいる、ということでした。また、捨ててから時間がたっていることも分かりました。おばあちゃんに聞いたら、その陸橋は、ふだんは歩く人は通らないらしいです。ごみがたまっていく原因は、大人が車を運転しているとちゅうで、ごみを捨てたんだとぼくは思います。どうして大人たちは、ごみを家にもちかえないんだらうと、ぼくは思いました。なんでぼくたちがごみを拾わないといけないんだらう？

おとうさんに聞いたら、捨てるほうからすると、ごみがたくさんおちている所は、ごみを捨てやすいそうです。ぎゃくに、きれいな所には、ごみは捨てにくい

と言っていました。

ボランティア清そうはたいへんだったけど、きれいな町にするために、ぼくはこれからもボランティア清そうをしようと思います。



* 中学年部門 *

優秀賞

ぼくと小さい生き物のいる町

富山市立堀川南小学校 三年

丸山 まるやま
隼橙 はやと

ぼくは、この夏、住んでいる町の身近で、さまざまな生き物とふれ合うことができました。新しいことも、ちょうせんすることができました。

家の横の用水には、小魚やどじょうがいました。すぐその田んぼには、ヤゴやおたまじゃくし、アメン

ボがいました。田んぼのあぜには、バッタやコオロギ、ハンミョウがいます。ハンミョウは、見つけるのがとてもむずかしく、すばしっこくて、つかまえるのがとてもたいへんです。

ハンミョウとのはじめての出会い、学校帰りのつうがく路で、ぼくの目の前にとっても小さなハンミョウがとんできたことで、見つけることができました。

空を見ると、セミやトンボ、チョウがたくさんとんでいます。

ぼくは、これらの小さな生き物を見たり、つかまえたり、しくしたりするのが大好きです。キアゲハやクロアゲハ、ジャコウアゲハがとんでいるところを見ると、羽がきれいで、ゆうがにとんでいて、とてもわくわくします。

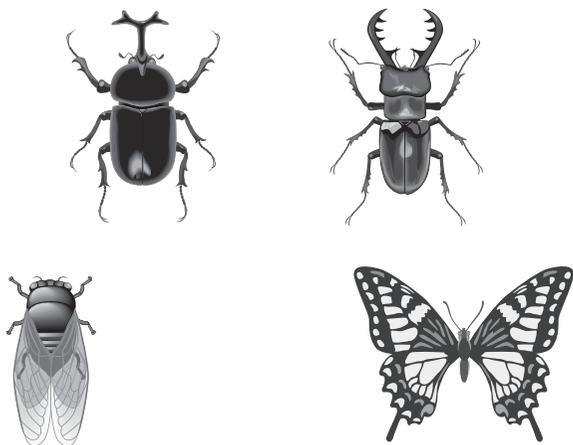
この夏休みが一番の思い出は、お父さんといっしょにノコギリクワガタやコクワガタをつかまえたことで

す。そして、とてもめずらしい生き物をつかまえました。それは、ミズカマキリです。ミズカマキリは、ぜつめつきぐしゅに指定されている地いきもあるぐらい、きちょうな生き物です。

しかし、ざんねんながら、しいく中に死んでしまった生き物もいました。ぼくは、さい集したことを思い出にするため、はじめてのことにちょうせんしました。それは、ひょう本を作ることです。お父さんといっしょに、本や科学はく物館で調べてかんせいさせたとき、おとうさんとグータッチしました。このひょう本は、ぼくの大切なたから物です。いつまでも大事にしたいと思います。

ぼくの住んでいる町には、きれいで、強くカッコイイ小さな生き物たちが、たくさん住んでいます。このきちょうなかんきょうを、いつまでも持ぞくさせていきたいです。ぼくが大人になる数十年たって、子ども

ができたときに、同じような体けんをしてほしいと思うので、この町のしぜん、生き物をこの町に住んでいぼくたちでまもっていきたいと思っています。わくわく、ドキドキする気持ちは、子どもも大人もいっしょだから。



* 中学年部門 *

優秀賞

新しいきせつが来たら・・・

富山市立萩浦小学校 三年

よしだ
吉田 彩乃
あやの

さくらの開花せん言、つゆ入り、つゆ明け、秋のこ
う葉、はつ雪など、きせつのかわり目がニュースにな
るころ、わたしの家では、あるじゅんびがはじまりま
す。「きせつのはいくコンテスト」です。わたしと姉
が考えたイベントは、ほかに、「おかしそうだつせ

んじゃんけん大会」や、たこやきをやきながらおどる
「たこやきダンス」などがありますが、これが一番も
り上がります。

まず、記入する用紙とポストを用意します。これも、
わたしたちの手作りです。用紙をくばると、みんないっ
せいに頭をかかえはじめます。

そんな中、いつも一番に書き終えるのは、そ父です。
そ父は、いつも、植物やにわ木の手入れをしているので、
そのきせつのはしぜんの様子を、よくはいくにとり入れ
ています。

そ母は、きせつのはしぜんの食べ物を、はいくにとり入れるこ
とが多いです。買い物へ行ったり、食事のじゅんびを
したりすることが多いので、食べ物からきせつへんか
を感じとっているのかもしれない。

父や母は、風りんやかき氷など、きせつのはしぜんの風物詩を
モチーフにすることが多いです。それらの風物詩は、

家で行う、きせつごとのイベントでもよく登場します。

姉とわたしは、きせつの遊びをはいくにとり入れることが多いです。遊んでいるところを想ぞうして、いつもワクワクしながら考えます。

全いんがてい出した後は、みんなでかんしょうし合
い、グランプリを決めます。そのときに、昔の話を聞
いて、今とのちがいを感じたり、新しいきせつへのき
たいと、ワクワクする気もちを高めたりすることがで
きます。すると、今までけいけんしてきたきせつとは、
また、ちがう出来事がおこるような気がして、新しい
きせつへのうつろいが、楽しみになります。

このはいくコンテストを通して、それぞれのきせつ
を体全身で感じ、言葉で表げんすることの楽しさを知
ることができました。

今後も、このコンテストをつづけていきたいです。
これからのような新しい発見がまっているのか、と

でも楽しみです。



* 中学年部門 *

佳作

山や川での体験

南砺市立利賀小学校 四年

亀谷 かめや 慶仁朗 けいじろう

ぼくは、今年、山村留学して、自然豊かな所で生活をしていきます。そこで、ぼくは、これまで体験したことのないことをたくさんしました。

まずは、山登りです。ぼくは、「こんごうどう山」という山に登ったり、「ほう坂とうげ」を歩いてこえ

たりしました。自然豊かな所を歩くと、これまで見たことがなかったものをたくさん見ることができました。

例えば、こんごうどう山では、山頂にとっても美しい花が咲いていたり、ほう坂とうげでは、初めてひがん花を見ることができたりしました。また、山道に入ると、むかごが生えていて、一緒に歩いた友達と食べ歩くこともできるほど広いはんで生えていて、すごいと思えました。他にも、見たことのない実があったり、草が生えていたりしました。

次に、つりです。ぼくは、初めて自分で準備をして、つりをしました。始めはうまくつれなかったけど、少しずつ上達して、最後はたくさんつることができました。岩の後ろにかくれているのをつれるようになったり、「ふりこだほう」という技を使って、つれるようになったりしました。

また、川で泳ぎました。川の流れが速く、流されそうになり、とてもこわい体験もしたけれど、自然の中で遊ぶのは、とても楽しく感じました。

たくさんの魚が生きていたり、川遊びができるほどきれいな川だったりと、とてもすばらしい川もありました。

ぼくは、今年いろいろな体験をする中で、こんなに豊かな自然をこれからも守っていかないといけないと感じました。そのために、みんなが考えた、ポイ捨てをしない、洗剤などを直接川に流さない等、ルールや決まりを守っていききたいと思いました。

そして、花や川だけでなく生き物も守っていきけるようにし、今だけ、自分だけを考えるのではなく、これからもっと長い間、このよい環境が続くように考えて、行動していかねばならないと思いました。



* 中学年部門 *

佳作

ごみをへらして、くらしを守ろう！

富山市立速星小学校 四年

高瀬 たかせ
青空 あおい

「大変だ！ごみをへらさなきゃ！」

と、ぼくは思いました。なぜかというと、総合的な学習の時間に、「ごみ」について調べたからです。そして、「ごみ」がふえるだけで、自分たちのくらしも、こわれてしまうことを知りました。その理由を二つ紹介し

ます。

一つ目は、海洋ごみのえいきょうです。

人間は、魚を食べていますが、海洋ごみのえいきょうで、魚が住みにくくなり、食べる魚がいなくなってしまう。他に、海洋ごみの中にあるマイクロプラスチックを飲みこんでしまう魚もいます。その魚を人間が食べてしまえば、その人は、おなかをこわす可能性があります。

二つ目は、食品ロスのえいきょうです。

「別に燃やすから、人間のくらしに関係ないんじゃない？」と思いましたが、ちがいました。燃やすときに、二酸化炭素が出て、地球温暖化が進んでしまい、人間のくらしにもえいきょうが出てしまうのです。

以上の理由から、ごみがふえるだけで、人間のくらしに悪いえいきょうが出てしまうのです。

しかし、この二つのごみは、気を付ければ、へらす

ことができます。

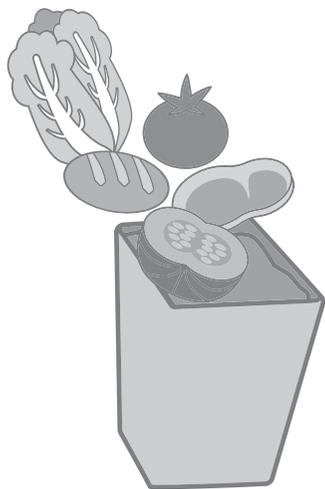
まず、海洋ごみをへらすために、ごみ捨てのルールを守ればよいと思いました。ごみを分別するルールを守れば、リサイクルできる物も生まれ、ごみがへります。また、海洋ごみは、川などにポイ捨てをすることから起こるので、ルールを守ることで、確実にへらせます。しかし、このルールを守らない人たちがいるから、起こってしまっていると思います。だから、ぼくは、ルールを守って生活することが大切なことだと考えました。

次に、「食品ロス」をへらすために、ある取り組みをがんばりました。それは、「とやま環境チャレンジ一〇」です。富山県がやっている活動で、ぼくの学年でも取り組みました。

特に、ぼくは、「ご飯を残さず食べる」という取り組みをがんばりました。なぜなら、残食をなくせば、「食

品ロス」がへり、燃やすときに出る二酸化炭素をへらし、地球温暖化のえいきょうを少しでも止めることができると思ったからです。

今からでも、これからのごみをへらして、くらしを守っていききたいです。



* 中学年部門 *

佳作

水と生き物を大切に

富山市立大久保小学校 四年

田上^{たがみ} 珀慶^{はくけい}

ぼくは、いろんな川に行つて、たくさんの生き物を
かんさつしました。

一番印しようにのこつている川は、岐阜県の川です。
川は大きくて、石がきがいっぱいあつて、水はつめた
くて気持ちよかつたです。石がきの水たまりで、サン

シヨウウオの子どもを見つけたとき、家族でびっくり
しました。水がきれいな所にしかない生き物だから、
この川の水は、生き物にとつてくらしやすい場所なの
だと思ひました。他には、本でしか見たことがない大
きなヒキガエルを見つめました。つかまえるとき、水
の流れが速いのに、びくともしないカエルを見て、す
ごい流れにたえていると思ひました。

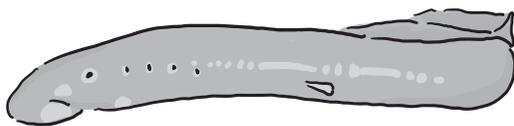
よく遊ぶ川は、住んでいる地いきの小さく流れのお
そい川です。友達がカニを見つけて、二人でこうふん
しました。カニは魚を食べるかなと思ひていたら、小
魚をつかまえて、カニの入つたケースに小魚を入れる
と、いつのまにか食べていておどろきました。

よく行く広場の、かくれた小川では、水がさらさら
と流れていました。お母さんとかんさつしていたら、
によるよると何かが出てきて気持ち悪かつたです。
つかまえて調べてみると、「ヤツメウナギ」でした。

生きた化石と言われている、見つけるのはむずかしい
そうです。他にもドジョウやヤゴ、ハゼみたいな魚を
発見して、ぼくの住んでいる地いきには、生き物がた
くさんいるのだなと思いました。

ぼくは、生き物とふれあうのが大好きです。身近に
いる生き物を大切にしたいです。そのためには、川の
水をきれいに守っていかないとだめだと思いました。
ぼくができることは、ゴミをすてないことと、水をよ
ごさないことです。

これからも、きれいな水を大切にしてい、住んでいる
生き物も大切にしていきたいです。



* 高学年部門 *

最優秀賞

田んぼのそばで暮らす町

高岡市立能町小学校 六年

芹原^{せりはら} 沙來^{さくら}

「ゲコゲコ…」

私の住む能町は、春から夏の夜はカエルの声が聞こえる、田んぼだらけのところにポツポツと家の建つ地域でした。元々が田園地帯としても知られる地域だったせいか、家の前には大きめの側溝があり、田んぼへ

と流れていきます。水はきれいに澄んでいるので、水草や小魚、タニシが見えます。カモが泳いでいることもあります。

近くに流れる一級河川の庄川は、昔は射水川と呼ばれ万葉集にも詠まれた川です。「朝床に、聞けば遙^{はる}けし、射水川、朝漕^{あさ}ぎしつつ、唄^{うた}ふ舟人」という歌の一部は、私の通う能町小学校の校歌にも使われていて、私は「射水川」のフレーズの部分が好きで美しい川が自まんです。

そんなのどかな私の住む町に、大きな変化が起きました。宅地のブームです。ここ数年で数十軒の家が建ちました。元は田んぼだったところですよ。時期によっては、見わたす限り田んぼの緑が広がって、遠くまで見わたすことが出来た景色が、今は見られません。住宅地の中に田んぼがところどころに残っている感じが、す。

家が増えたことで、小学校には何人も転校生が来て、友達が増えてうれしいこともありました。でも、私の中でちょっと気になる悲しいこともありました。それは、犬と散歩をしていたときのことです。家の前で洗車をしている人がいました。たくさんの泡が勢いよく側溝へと流れこんでいるのを見ました。すぐ近くに田んぼがあります。この泡はまちがいなく田んぼに行く、そう思うと悲しい気持ちになりました。人が生活するときに使った水が出るのは仕方ないことですが、何ともやりきれない気持ちで、散歩からの帰り道は足が重かったです。

何か自分にできることはないか考えてみましたが、答えが見つからないまま夕飯づくりの手伝いするとき、散歩でのことを母に話してみました。すると、「家の草むしりを手伝ってくれることで、自然を守る手伝いが出来ているんだよ。除草剤を使えば楽で汗を

かかなくていいし、時間もかからないけど、ここは田んぼに近いから近所の人たちもみんな草をむしっていることも環境を大切にすることに役立っているよ。」と、言われました。自分も地域の役に立てているんだと思っとうれしくなりました。

自然や環境を守ることも大切です。私たちの生活も大切です。ちょっとした心がけで、だれでもできることがあると知りました。他にも、何か出来ることがないか考えたり、呼びかけたりして、小さいことからでも行動にうつしていきたいと思います。

私が大人になったときに、私の住む能町の環境はもっとちがっているかもしれないませんが、自然や環境への思いやりの気持ちを持ち続けたいです。いつまでもきれいな水が流れるのを見続けたいです。

* 高学年部門 *

優秀賞

みんなで守っていききたい自然

富山市立大久保小学校 五年

鈴木 すずき
颯優太 はやた

ぼくの家のそばには、サワガニの住んでいる川があります。幼稚園や小学一年生の夏休みに、よくつかまえて、飼育観察をしていました。

この作文を書くことに決めて、ぼくは久しぶりに、川の様子を見に行きました。すると、小さい時にはた

くさん住んでいたサワガニや、ドジョウやモクズガニの姿が見当たりませんでした。

ぼくは、たった四年しか経っていないのに、どうしてしまったのだろうと不思議に思って、川の様子をくわしく観察しました。

よく見てみると、川にはタバコの吸殻いごらやゴミ、水が白くにごっているのが分かりました。また、エサや住みかになりそうなコケや、小さな虫なども、少なくなっていました。

小さなころに、毎日のように観察しに行っていた大好きな川が、こんなにも変わってしまっ、とてもさみしくなりました。

「昔は、この辺りにもホタルが飛んでいたたり、ゲンゴロウやタガメが住んでいたりしたんだよ。」
と、お母さんに教えてもらったことがあります。

たくさんの生き物が住んでいたこの場所が、こんな

にも、生き物がいない場所が変わってしまったのは、ぼくたち人間が、川にゴミを捨てたり汚してしまったから、生き物が生きづらい場所が変わってしまったのではないか、と思いました。

しばらく、川の観察を続けていると、少ないけれど、サワガニの姿を見つけることができました。ぼくは、少し安心して、とてもうれしくなりました。それと同時に、これ以上この川から生き物をへらしたくないという気持ちになりました。

ぼくが大好きだったこの川を守っていくために、ぼくたちにできることはないか、考えてみました。

一つ目は、自分の都合で川にゴミを捨てたり流したりしないこと。

二つ目は、ぼくたちが生活で使っている水は川や海に流れているという意識を持ち生活すること。

ぼくたちにできることは、小さなことかもしれない

けれど、みんなと、この二つを守っていけば生き物たちが住みやすい環境が戻ってきて、川や海もきれいになるのではないかと思います。

そして、ホタルやゲンゴロウが住むきれいな川を取り戻して、みんなが幸せにくらせる環境を守って、未来までずっと大切にしていきたいです。



* 高学年部門 *

優秀賞

白いライチョウが見たい

富山市立芝園小学校 五年

砂田 すなだ
嶺太 りょうた

「白いライチョウが見たい。」

そう母にたのんで、五月の初め、室堂に行きました。

僕は夏の茶色い羽のライチョウしか見たことがなかったの、白いライチョウを見てみたかったです。

みんなが雪の大谷に向かう中、僕は真っ先にライ

チョウを探しに行きました。まずは、みくりが池を一周します。雪が深いので足がはまって、なかなか進めません。きりで周りが見えにくい中、目をこらして遠くの雪原を試みたり、ハイマツのしげみの中によくいると聞いていたのでハイマツの中もじっくり見ました。

やっとみくりが池の半分まで来たとき、人が集まっているのが見えました。僕は足がつかれていることもわすれてかけだしました。しげみの中からガサガサと音がしました。音がした方をよく見ると、ライチョウがひそんでいました。しかも、ペアです。そのライチョウはもう、ずいぶん色が変わって黒っぽくなっています。

その後もたくさんライチョウに出会うことが出来ました。でも羽は夏の色になっています。

「もうみんな羽は生え変わってしまったのかなあ。」

あきらめかけたそのとき、とつぜん一羽のライチョウが目の前に飛んで下りて来ました。羽が白色です。雪にとけこむようなきれいな白色に、黒いもようが少しまじっていました。僕がじっとみつめているとライチョウが、

「ガーガー」

と、きみような鳴き声を出して、近づいて来ました。ライチョウがこのような鳴き声を出すとは、思ってもみなかったのです、すごくおどろきました。写真をとろうとして近づいても、全くにげようとしませんでした。さんさくの後には、自然観察ツアーに参加して、ナチュラリストの人に、ライチョウのことを教えてもらいました。ライチョウが氷河期からいることにおどろきました。氷河期に北アルプスにとり残された生き残りなのだそうです。

でも、ライチョウは近年数が減っています。原因の

一つは、地球温暖化です。そしてもう一つは、人間が山で捨てるゴミのせいです。ゴミのにおいにつられて、サルなどの動物が高山に登って来てライチョウを食べってしまうんだそうです。

この話を聞いて、僕は何か自分に出来ることはないか考えました。電気を節約したり物を大切にすること、登山中にゴミを拾うことなどはすぐにでも出来ることです。また、立山ではライチョウの保ご活動も行っているそうなので、来年は参加してみたいです。

ライチョウが一羽でも多く守れるように、身近な活動から始めていきたいです。



* 高学年部門 *

佳作

私たちのくらしと自然の関わり

砺波市立出町小学校 五年

荒木^{あらか} 結夢^{ゆめ}

じゃぐちをひねればいつでも明で安全な美味しい水が出てきます。これは、私たち日本人のだけれもが知っていることです。

元をたどると、海や地表からじょう発した、雨雲からふった雨や雪解け水が川に流れ、私たちの命をつな

ぐ水になっています。このように、水はじゅんかんしていることを学校で学びました。そのとき、私は自然のすごさを感じると同時に、山や海や川に捨てられているゴミのことを思い出しました。

私は自然が大好きなので、四季を問わずに、山や海や川に出かけます。四季ごとに、景色やにおいや生き物が、ちがって生きている実感ができ、そしておもしろいです。

しかし、どこに行ってもきれいな景色のかたすみにゴミが必ず落ちています。おかしのふくろ、空きかん、ペットボトルやタバコのすいながら、夏にはバーベキューの炭に花火。冬にはカイロ。最近では、マスクがよく落ちています。軽い気持ちで捨てていく人たちは、そこに雨がふり、雪が積もり、大地にしみこんで私たちの口にはいる水になっていることを、想像できないのだと、いかりと悲しみを感ずります。浄水場

で消毒されているからというの、関係ありません。自然のめぐみをもたらしているのに、その自然をよごしていることに、気付いてほしいと思います。今はだれが使ったか分からないマスクや、ペットボトルはきけんですが、放置して帰ることはできないので、拾って分別して捨てています。

生きていれば必ずゴミは出ます。でも、そのゴミをきちんと決められた方法で捨てればいいだけなので、だれにでもできる簡単なことで自然を守るし、自分を守ることもなります。森、山から川や海へと流れ着いたゴミを、魚が食べてしまうことも防げます。ゴミを食べた魚を、私たち人間が食べることもありません。

海は、全世界とつながっています。日本の山や森、川に捨てたゴミが、海をわたり、他の国に流れ着くかもしれません。それは、とてもはずかしいことです。

日本では当たり前前にじゃぐちから水が出ますが、世界から見ると日本の当たり前が、当たり前ではありません。水不足の国では海の水から飲み水を作り出している、自分だけの問題ではありません。

ささいな行動一つで自然を守ることも、こわすこともできてしまいます。どちらの行動を選ぶか、一人一人が考えていく必要があると思います。



* 高学年部門 *

佳作

美しい富山湾を守る人たち

富山市立宮野小学校 五年

澤井さわい 瑠花るか

私は、四年生の総合的な学習の時間に、「環境を守るために」について学習をし、「環境を守る活動」を
していこうと決めました。

最初の頃は、取り組むことができていましたが、五年生になって半年が経ち、なかなかその取り組みがで

きていないことに気付き、道徳科の授業で環境を守り
続けていくために大切なことは何かについて考えまし
た。「海を耕す人たち」という話を読み、「人間の都合
ばかり考えてはいけない」ということに気付きました。
そこで、他にも環境を守っている人がいないか調べて
みることにしました。

私は、インターネットを使って、「美しい富山湾を
守る人たち」「豊かな富山湾を守る人たち」について
調べました。調べて分かったことは二つあります。

一つ目は、「美しい富山湾を守る人たち」の活動に
ついてです。

富山湾は、ユネスコが支援する「世界で最も美しい
湾クラブ」に平成二十六年十月に加盟しました。富山
県は、非常に自然に恵まれています。河川上流部で
の集中豪雨により山林が崩壊し、河川を通して大量の
流木や沈木などが富山湾に流れこむなど、漁業被害が、

度々起こっているそうです。そうしたことから富山県の漁業者は、県の森林合同組合等が行っている、植樹祭などに参加したり、岐阜県と交流を行うなど、川と海をつなぐ環境保全運動に、取り組んでいるそうです。「美しい富山湾を守る人たち」は、その他にも、「天然石けん運動」や「海浜清掃運動」「海岸クリーン作戦」を、毎年行っているそうです。

二つ目は、「豊かな富山湾を守る人たち」の活動についてです。

魚は、孵化↓成長↓産卵という一連の再生産のサイクルを繰り返し、生態系の中でバランスをとりながら、自らの種を維持しているそうです。しかし、魚を獲る技術の急速な進歩によって漁獲量が拡大したことや、海岸線の埋立・開発などの環境変化によって、再生産のサイクルが崩れ、日本周辺の水産資源が減ってきています。このような悪循環を断ちきるために、「豊か

な富山湾を守る人たち」は、計画的に漁業を行い、地域に応じた「資源管理型漁業」をしています。例えば、富山県では、十三センチメートル未満の、小さい魚を再放流したり、網目拡大、休漁の設定などに取り組んだりしているそうです。

調べ学習を通して、「美しい富山湾を守る人たち」、「豊かな富山を守る人たち」は、色々な活動をしており、みんなで富山湾を守っていることがわかりました。そして、富山湾を守るためには、確かにゴミ拾いも大切ですが、日頃から気をつけていかなければいけないと思いました。例えば、水を汚さない、ゴミをポイ捨てしない、電気の無駄遣いをしないなどの活動に、日頃から取り組んでいきたいです。

私がおばあちゃんになる頃まで、ずっと美しく自然豊かな富山にするために、環境を守る活動を少しでも多く行っていきたいです。



清流環境科学賞

低学年部門

最優秀賞

川の生きものをまもろう

高岡市立下関小学校 二年

伊藤 瑛紀

ぼくは、富山けんの川にすむ生きものを、しらべて
みました。

ぼくがしらべてみた生きものは、メダカです。どう
してかというと、メダカがぜつめつきぐしゅだからで
す。

さいしょは、メダカのしゅるいからです。富山のや
せいのメダカは、クロメダカやヒメダカがそんざいし
ています。メダカは、インフゾリアやミジンコ、アカ
ムシ、ボウフラなどをこのみにしています。一回のさ
らんんでやく十このタマゴがふかし、一年かけて、せ
いちようします。

なぜ、そのメダカがぜつめつすんぜんなのかとい
うと、りゆうは、二つあります。一つめは、ゆるやかな
川がなくなってきたからです。二つめは、人げんがかっ
ていた、がいらいしゅをすてたため、どんどん、はん
しよくしていき、小さなやさしい魚をたべてしまった
からです。さらに、カラスやシラサギもメダカをたべ
てしまいます。

ぼくは、メダカがぜつめつきぐしゅだったことや、
メダカのせいそくちががきられていることを、しりま
せんでした。これから、しぜんにやさしいかんきょう

をつくるために、じ分ができることはなにか、考えて
わかったことをいいます。

ゴミのポイすてをふせぐことと、かっている魚を川
にすてたりしないように、みんなにつたえるために、
がんばりたいと思います。



低学年部門

優秀賞

わたしたちのみ水はどこから

富山市立速星小学校 二年

中谷 なかに
杏菜 あんな

わたしたちのふだんつかっている水は、どこからくるのでしょうか。わたしは、山や森の木からくると知って、びっくりしました。

のみ水のもとになるのは、山や森にふる雨や、雪か

らできています。しかし、そのままながれてくるわけではありません。一ど、木のねっこや土の中にたくわえられることで、ゆつくりと水をきれいにしているそうです。たかさんの、きれいな水をたくわえてる山や森のことを、「みどりのダム」と呼ばれることを知りました。

「みどりのダム」には、山や森にある元気な木がひつようです。元気な木をそだてるには、たつぷりの太陽の光もたいせつで、人の手で、手入れをするひつようもあるそうです。わたしたちの知らないところで、たかさんの人がきょう力していることを知って、びっくりしました。

こんなふうにつくられた水が、川をながれてじょう水じょうできれいにされて、わたしたちの家や学校にとどけられます。

わたしたちのつかう水は、たくさんのしぜんや人が、
かかわってつくられることを知ったので、これからも
水を大切にしていきたいと思います。



低学年部門

優秀賞

学校のサツマイモ

富山市立音川小学校 二年

若林 わかばやし
由萌 ゆめ

「サツマイモのつるをたべます。」

「えっ、たべられるの。」

わたしたちがそだてたサツマイモのつるを、学校でたべました。今までに、たべたことのないあじです。さとうとしょうゆで、あじがついていましたが、かむ

と、サツマイモのあじがしました。むらさき色と、みどり色のくきがありました。ふといくきと、ほそいくきがありました。おいしそうなくきをえらんで、とっていたので、やわらかくなっていました。

つぎは、サツマイモをぬきました。わたしたちが、はっぱの数を数えたり、ひりょうをやったりして、五月からずっとだいじにしてきました。

うえきばちからはみ出しています。ぐんぐんのびていったので、いもは、びっくりするくらい、大きくなっていました。むらさき色です。くきにしっかりついていたので、はさみで切りおとしました。ぐっと力を入れて、切らないといけません。つるからえいようをもらって、どんどん大きくなってきたので、丸くてやわらかいつるではなく、ふとくて、でこぼこして、かたくなったところに、いもがついていました。いもを大きくしてまもっていたところは、こんなにじょうぶで

す。手でもつと、いもが四つもぶら下がっています。
わたしは、おもくてやっともったのに、くきはぜんぜん
切れませんでした。

おいしいもやくきをそだてるために、こんなつよ
いつるになっていたので、びっくりしました。



低学年部門

佳作

ノコギリクワガタとぼくの夏休み

富山市立新庄小学校 二年

清水^{しみず} 逞雅^{たくが}

ぼくの家には、ノコギリクワガタのオスとメスが一
ぴきずついます。おとうさんが、よる、山でつかまえ
てきてくれました。

ノコギリクワガタは、やこうせいなので、昼まは、
おちばや土の中で休んでいます。きのうのよるに、エ

サをしつかりたべたか、チェックしています。ぼくは、
朝おきて、一ばんに、それを見に行くのが好きです。

とくに、オスのクワガタの方が、メスよりも大あご
をつかって、はっぱや木のくずをはさむ力がつよくて、
カッコいいです。

クワガタのオスは、とても元気なので、虫かごの
べを「キーキー」と音をたててうごき回り、ときどき
ひっくりかえってしまうので、

「だいじょうぶ？」

と、ぼくは聞いてしまいます。ひっくりかえったノコ
ギリクワガタを、木でたすけてあげます。

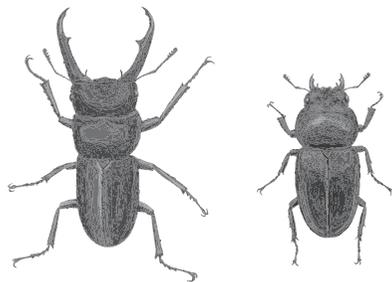
「ありがとう！」

と、クワガタに言われたらうれしいのにな、と思って
しまいます。

土の中にもぐっていくところや、土の中でしずかに
ねむっているすがたも、かわいくて大好きです。

ノコギリクワガタは、夏の間の二、三か月しか生き
られません。

ぼくは、元気なノコギリクワガタオスメスと、一
日も長くてのしくすごしたいです。



低学年部門

佳作

きれいな百世川

南砺市立利賀小学校 二年

城岸^{じょうがん} 梨央花^{りおか}

「つめたい！」

わたしがすむ、とが村の百世には、川のそこが見え

るくらい、きれいな川があります。

わたしの家は、その川の近くにあるので、お姉ちゃん
とよく、川であそんでいました。石やはっぱ、お花
をあつめて、おみそしるをつくってあそぶのが、たの
しかったです。

あそんでいると、おねえちゃんが、

「川の水でおちやをつくらうよ。」

と、言ったので、

「みずにすなをいれよう。」

と、言いました。

そのうち、風がビューンとふいてきたので、おみそ

しるがながれてしまったけど、とてもたのしかったで

す。

お休みの日に、百世川とはちがう川を見ることがあ

りました。その川は、とがの川のように、川のそこも
見えないし、すこし、くさいにおいがしました。

わたしは、あたり前だと思っていたけど、きれいな
川は、あたり前じゃないと分かりました。

これからも、ごみをすてないようにしたり、ごみが
あつたらひろったりしながら、きれいな百世川をたい
せつにしていきたいです。



* 中学年部門 *

最優秀賞

ホタルのすみかを守る

射水市立金山小学校 三年

橘 たちばな 奏志 そうし

ぼくのすんでいる所は、春には、つばめがやって来てすを作り、夏には、トンボやバッタやホタルなどがたくさん出て来ます。秋には、山にいろんな木の実がなるし、冬には、ため池に毎年、白鳥が来ます。しぜんがいったいの金山で、ぼくがとくにすきなのは、夏

に、お寺のさくらの木で、いとこといっしょにセミをとることです。

ぼくは、小学校のそう合の時間で、ホタルについてべん強しました。とくにおどろいたことは、二つあります。

一つ目は、ホタルはたまごのときから光るといふことです。

前までは、せい虫になってからおしりが光ると思っていたけど、よう虫のときも、土の中で光っているとということが分かってびっくりしました。

二つ目は、ほとんどのホタルは、一年しか生きられないということなんです。

ふつうは、一年しか生きられないけれど、ホタルの先生がし育すると、なんと二年も生きたホタルがいたそうです。ぼくは、金山のホタルの数がへってしまうのはいやなので、ホタルに、もっとたくさん長生きし

てほしいと思いました。

ぼくは、家族で何回かホタルを見に行きました。はじめは、ホタルの光があまりなかったけれど、八時をすぎるとぼつぼつと光が多くなりました。耳をすましても、音は何も聞こえなかったので、ホタルはずかな所にいると思いました。お母さんが子どもだったころは、今ぼくの家がたっている田んぼの周りにもホタルがとんでいたそうです。

ぼくは、これからも金山にたくさんホタルがいてほしいと思います。だから、ホタルのすみかの用水をきれいにしたいです。もしも、きれいじゃなかったら、ホタルのえさのカワニナがいなくなるからです。

調べてみると、一ぴきのような虫がせい長するまでには、三十ぴきのカワニナを食べると書いてありました。ぼくはこの前、一ばんで、八十ぴきのホタルを見ました。計算すると、三十×八十で二千四百ぴきのカワニ

ナが金山の用水にいたということです。カワニナは、農やくやせんざいでよごれていない、水温が三十度以下の、水の流れが速すぎない、岩や水草などのかくれ場所がある所がすきだそうです。

ホタルが、元気に大きく育つために、まず、カワニナが安心してすめる用水を守っていききたいと思います。



* 中学年部門 *

優秀賞

川を守るために

砺波市立砺波北部小学校 三年

黒田くろだ 唯心ゆみ

私は、二年生の時にイタイイタイびょうのことをべん強しました。

その時に気づいたことは、川は、山や、町や、海にも、人の生活にも、つながっていることです。だから、私たちの大切な川を、守っていかなくてはいけません。

でも、私はどうやって守っていけばいいか、分かりません。

お母さんが、令和二年十月十五日の北日本新聞を見せてくれました。そこには、富山県のくまの川に、二千びきの魚が死んでういている写真がありました。原因を調べたけっか、くまの川の水や、死んだ魚に問題はなかったと書いてありました。

私は、このきじを見て、イタイイタイびょうしりょうかんでべん強した「神通川が白くにごってたくさん魚がういていた」という言葉を思い出しました。そして、くまの川の魚が死んだ原因が分からないことが、すごくこわいことだと思いました。

私の家の近くにも川がたくさんあります。きれいな川だと思って見ていたけれど、川の水のことは分かりません。そこで、お父さんと家の近くのがんど川と庄川、神通川とくまの川をパックテストで水のごれを

そくていしました。

このけんさをして、きれいな水だと思っていた川が、よごれていたたり、きれいじゃないと思っていた川がきれいな水だったので、びっくりしました。また、調べるときに大切なことが二つあります。

一つ目は、けんさのけっかだけを見て、終わらないことです。

水は、とうめいなかにごっているかを見たり、川のおいをかいでみたり、流れがあるのかたまっているのかを調べることで、川のじょうたいが分かります。

二つ目は、川のまわりもよくかんさつすることです。家や工場がまわりにあるのか、木や草などの自ぜんが多いか、コンクリートが多いかなどをかんさつします。川のまわりのかんきょうは、川の水しつにもえいきょうがあることが分かりました。

私は、富山県でおきたイタイイタイびょうをべん強

したり、分からないことを調べたりして、知ることから、森や川や海を守る行動ができると思いました。



* 中学年部門 *

優秀賞

みらいの世界はどんなのか

高岡市立野村小学校 四年

羽岡 はおか 愛衣 あい

「うちぞうさま。」

夜ごはんで、いつもごはんつぶやみそしるのしるがのこっているのに、私はこう言っていました。でも今は、もうごはんをのこすことはありません。

私ごはんをのこさなくなった理由は、総合的な学

習の時間に、日本にも、食料ききがせまっている事実を知ったからです。今、世界では、バツタが大りよう発生して、バツタが、作物を全て食いつくしてしまう事けんが、多数起こっています。だから、食べ物を大切にしようと思ったのです。私は、「チャレンジ一〇」で、「ご飯をのこさず食べる」を、特に、がんばります。はじめから、よそうごはんのりようを少なくすると、全て食べられるようになりました。

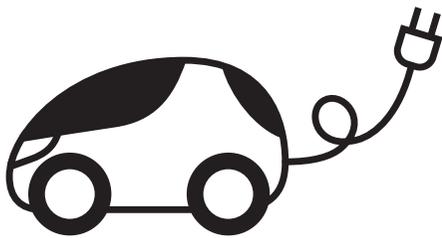
残飯がへると、ごみ箱にすてるゴミのりようがへります。ゴミをたくさんすると、しょうきやくろでもやすのが、大へんになります。しかも、二さん化したんそのはい出りようもふえます。そうになると、地球温だん化が進んでしまいます。地球温だん化がどんどん進むと、作物が育てにくくなって、食料ききになります。うえ死にしまう人々が、たくさん出てきてしまうかもしれません。そのことが、とてもこわいです。

もし、みんなが、今の二さん化したんそのじょうきょうをほうっておくと、火災がふえたり、生たいけいにもえいきょうが出てきます。生き物たちが消えていき、人間も生きていくのがむずかしくなります。一番大へんだと思うことは、空ふくのうえに、のどがからからになることです。水もなくなってしまうのです。「チャレンジー〇」をやれば、二さん化したんそのはい出りょうをおさえられるなら、いつまでもこの取り組みをつづけたいと思います。

「ご飯を残さず食べる」以外にも、むだな明かりを消したり、植物を大切に育てたりしています。周りの人にもよびかけて、この取り組みを広げていきたいです。みらいの世界はどうかを考えて行動すれば、食料ききをおさえられると思います。

今までのような平和な地球に住んでいきたいです。これからも、地球温だん化をおさえるためにがんばって

いきたいと思います。



* 中学年部門 *

優秀賞

「水のけんきゆう室」にさんかして

富山大学人間発達科学部附属小学校 三年

米沢 よねざわ
優志 ゆうし

ぼくは、この夏休みに、家族と神通川左岸じょう化センターで、「水のけんきゆう室」に、さんかしました。さいしょに、下水道の仕組みのビデオを見ました。ビデオの中では、水のじゅんかんについて学びました。水のじゅんかんとは、ぼくの家からべんをながすと、

下水かんを通して、じょう化センターへながれます。じょう化センターできれいになった水は、川や海へながれます。川や海の水は、じょう発して、空へ行き、雨になって、地面に落ちます。その後、山から川を通して、ダムへながれます。さい後に、じょう水場へ行き、また、ぼくの家へもどるとい、くり返しのことです。

また、おどろいたことには、四人家族で水をバケツに百ばい分、一人分になると、バケツ二十五ばい分も、一日に使っているということでした。

次に、しせつ見学をしました。さいしよちんでん池、はんのうタンク、さい終ちんでん池を見ました。さい終ちんでん池では、かかりの人が、水をくんでくれました。その水は、とてもきれいでした。実さいに使われている下水道かんも見ました。その大きさは、ぼくが、両手をのばしても、とどかないくらい大きかった

です。ぼくは、かかりの人に、

「どうして、下水道かんは、だんだん大きくなっていくのですか。」

と、しつもんをしました。

すると、かかりの人は、

「二十五メートルプール百五十七はい分、じょう化センターに、下水が集まってくるので、大きくしなければいけないだよ。」

と、教えてくれました。

さい後に、実けんを三つしました。一つ目は、見た目のけんきゅう、二つ目は、しけん紙を使った水のせいしつを調べる実けん、三つ目は、やく品を使った水のごれを調べる実けんをしました。これらの実けんから分かったことは、じょう化センターできれいにされた水とくらべると、家から排水口にながすせんざいや、食べのこしのみそしる、牛にゅうなどは、とても

よごれている、ということでした。

ぼくは、食べのこしをしないようにして、川や、海の水が、いつまでも、きれいなかんきょうであるように協力したいと思います。



* 中学年部門 *

佳作

ごみを捨てるだけで

富山市立速星小学校 四年

浅野^{あさの} 朱俐^{あかり}

わたしたちの住んでいる富山、ここに住んでうれし
いことの一つは、海が近いことです。海では、泳いだ
りつりをしたりと、いろいろなことを楽しめます。魚
が気軽に食べられることも、海が近いからこそですね。
でも、海岸を見てみると、ほとんどの海岸で、海洋

ごみが確認されています。その量は、一年間で、およ
そ千八百トンだそうです。九十四パーセントが、プラ
スチック系のごみです。わたしが、一番困ると思うご
みは、マイクロプラスチックです。

マイクロプラスチックごみとは、太陽のし外線や波
の力でくずれた小さなごみのことです。直径五ミリ
メートル以下のため、回収する方法がないので、魚が
えさとまちがえて食べてしまうこともあるそうです。
このままだと、食べてしまった魚が、死にいたること
もあるので、わたしたちが食べる魚の多くが、マイク
ロプラスチックをふくむ魚になるかもしれません。

そうなったら、魚が次々に死に、魚を食べられなく
なるかもしれません。海岸がよごれ、人がどこかへ行
き、最終的に、きたない町になるかもしれません。せつ
かくのきれいな町の自然がなくなったら、もったいな
いと思いました。

わたしは、こんなにきれいな富山が、そんなふうにならないために、まずは、知ることが大切だと思います。

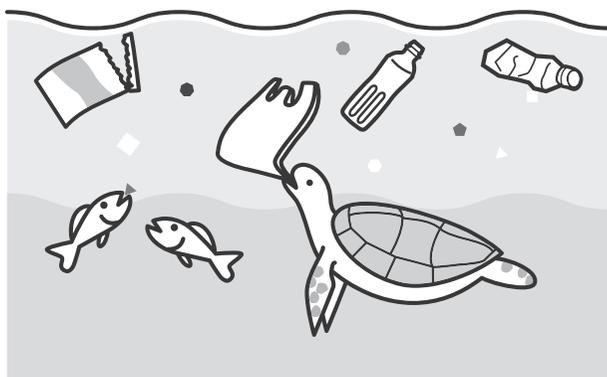
そのためには、テレビや新聞などで、今、起きている問題を知り、知ったことを他の人に伝えていきたいと思えました。友達や家族に伝えれば理解してくれて、ごみが落ちていたら拾ってくれるかもしれません。また、むだなごみを捨てなくなるかもしれません。

最後に、大切なことは、行動することです。例えば、海や川にごみを捨てないことです。川にごみを捨てると、川から海に流れ、魚が食べてしまうかもしれません。もし、それがプラスチックだったら、マイクロプラスチックごみになってしまいます。

次は、日常生活から出るごみをへらすことです。ごみ拾いアプリの「ピリカ」を使ってみようと思います。写真をとって投ごうするので、富山市内にはどんなご

みがあるのかを伝えられます。

わたしは、少しでもごみをへらせるように、様々なことに取り組みたいと思います。



* 中学年部門 *

佳作

食の安全の大切さ

南砺市立利賀小学校 三年

生田 いくた かこ

わたしは、社会科の時間に校外学習に行きました。校外学習では、食べ物をあつかっている工場の見学に行きました。そこでわたしは、「すごいな」と、思ったことがあります。

わたしが特に、「すごいな」と、思ったことは、食

べ物を作るときに一番気を付けていることが、えいせいだということです。工場見学に行く前に、教科書で学習したときも、しゅうまい工場で気を付けていることも、えいせいでした。わたしは、工場見学をしたときに、どのようにえいせいについて気を付けていたか、見付けることができました。

一つ目は、ごみを工場に入れないようにしていたことです。

わたしたちが工場に入る前に、必ず、コロコロローラーを使っていました。これは、外からほこりやごみを持ち込まないようにするためだそうです。

二つ目は、きかいで何度も何度も、食品をチェックしていたことです。

わたしは、一回のチェックで終わらず、何度もすること、より安全な食品にして、お客さんに売りたいという思いが表れているのだと思いました。お客さん

の口に入るものだから、とても気を付けていることを知り、「すごいな」と、思いました。そして、これだけのくろうがあるからこそ、わたしたちは、おいしいものを安全に食べられるのだと思いました。

また、その工場では、「チェンジアンドチャレンジ」を合言葉にして、仕事をされていました。チャレンジすることで、よりよいものにしていこうという努力が伝わる言葉でした。

わたしは、工場見学に行ったことで、たくさんのことを学び、食の安全にとてもきょう味をもちました。コロナのこともあり、これまで以上に食の安全については気をつかっているように感じ、早くコロナウイルスが治まるようにしたいと思いました。そのためにも、一人一人ができることを行っていききたいと思います。



* 中学年部門 *

佳作

みんなで防ごう！地球温暖化

富山市立速星小学校 四年

大山 おおやま
佐奈 さな

「昔はこんなに暑くなかったのに。」

わたしのお母さんがよく言う話です。わたしはそれを聞いて、どうしてこんなに暑くなってしまったのかを調べました。

調べると、地球が温かくなることを、地球温暖化と

言うことが分かりました。だから、地球温暖化について調べました。

はじめに、地球温暖化とは、太陽の熱で地球が温かくなることだと分かりました。そのえいきょうで、ヒマラヤの氷が溶けたり、高温でりんごなどに色が着かなかったりするそうです。また、日本にない病気がやってくるかもしれないし、かく大する可能性もあるそうです。他にも、北極や南極の氷などが溶けて、生物の住む場所を失う可能性もあるそうです。わたしはこのようなことがあったらと思うと、少し、心配になってしまいました。

わたしたちの学年では、地球温暖化を止める取り組みとして、「とやま環境チャレンジ10」をしました。わたしが、特にがんばった取り組みが、三つあります。一つ目は、エアコンを夏は二十八度、冬は二十度にする取り組みです。がんばった理由は、毎年夏に、

二十六から二十四度ぐらいにしてしまっていたからです。また、冬も毎日のようにつけていたので、生活を見直しました。

二つ目は、ご飯を残さずに食べることです。わたしは、ご飯を少し残してしまっていることがあったので、それがごみになるので、全部食べられるようにしました。

三つ目は、自分で考えた取り組みで、植物を育てることです。植物は、二酸化炭素を酸素に変えてくれると教わったので、地球温暖化を止める取り組みに入るとよいと思ったからです。また、年々、植物がへってきていると、ニュースで言っていたので、わたしは植物を大切に育てました。今も育てています。

最後に、わたしは、みんなで地球温暖化を止める取り組みをすることが、大切だと分かりました。自分たちの地球を守るために、わたしは、これからも地球温

暖化を止める取り組みを続けようと思っています。



* 中学年部門 *

佳作

大切な水

富山市立新庄北小学校 四年

小西^{こにし}
梨花^{りんか}

私は、水がどのように作られ、どのような働きをしているのか振り返って見ることにしました。

私の知っている水といえばプールの水、手洗い、畑、消火活動、飲料水などいろいろな場所で使われていると思います。私たちにとって、水は生活にかかせ

ない大切な資源で必要なものです。そこで、水について安全性、必要性について調べて見ました。
安全性について

水は、ちんさ池に集まり砂やゴミをしずめます。そして、急速かくはん池では薬品を入れてゴミを再度取りのぞきます。これらの水は、中央管理室で管理され、水質検査をしています。水質試けん所では、毎日さまざまな場所のじゃ口から水の水質検査をやって、キケンな生物がいなか検査をしています。毎日、検査のおかげでおいしい水が飲めています。
必要性について

水をまとめるダムは、川の水量を調節して水力発電に利用されたりします。また水不足にならないよう調節しています。

また、水げんの森にふった雨は、ゆっくり地下にしみこみ、やがて泉となつてわき出ます。そして、人に

安らぎをあたえ健康にもよいいきょうがあると言われている。

最後に、生活に使った水は下水しより場に流され、泥や砂、び生物、よごれのかたまりなどきれいにして大切な川や海に流していることを学習しました。

私は、水道水について今まで知ることがありませんでした。今回、私は水道水をどれだけムダに使っていたかを反省しました。まず、シャワーを使うときの水の出しっぱなし、歯みがき、食事のあとの食器洗いなど、いろんな場所で水のムダづかいをしていました。水は自分だけのものではありません。皆の水です。

さいがいするとき、一番必要なのは「水」です。さいがいでは、飲料水、トイレの水、お風呂、洗たくなどさまざまな所で水が大切になっています。水は私たちの生命を守ってくれています。

これからは、自然や資源を大切にして、皆がおいし

い水が飲めるとうれしいです。



* 中学年部門 *

佳作

生物の住む地いきとかんきょう

南砺市立利賀小学校 三年

谷^{たに} 山彦^{やまひこ}

ぼくが住んでいる利賀地いきには、たくさん山があります。だから、家のまわりは緑がいっぱいで、きれいな川もあります。たくさん生き物があるので、ぼくは、いつも虫取りや川遊びなどをして遊んでいます。虫取りをしたときは、アゲハチョウ、バッタ、トン

ボなどいろいろな生き物をつかまえます。でも、ぼくは、つかまえても元の場所に、にがしてあげるようにしています。それは、虫をにがしてあげることで、もつと虫がふえ、虫取りがさらに楽しくなるからです。

川の水はとてもきれいで、気持ちがいいです。そんな川で会った生き物はメダカ、カエル、ゲンゴロウ、アメンボ、オタマジャクシ、シマヘビ、サワガニ、アオダイショウ、サンショウウオなどです。

家の前や家の中にも生き物がたくさんいます。コオロギ、カマドウマ、ヘクサンボ、オニヤンマ、クモ、オロロ、アブ、ブヨ、ホタル、ハチ、ムカデなどがいたことがあります。

ぼくが見たことがない生き物は、利賀にはまだたくさんいます。こんなに緑ゆたかで、多くの生き物が住んでいる利賀地いきは、本当に素晴らしいと思います。しかし、ただ山にいるから緑がゆたかで、川がきれい

になるとは思いません。そこには利賀地いきの人の思いがあると考えました。

まず、利賀地いきの人は、あまりじょ草ざいを使っていないと聞きました。だから虫たちが生きやすくなっているのだと思いました。次に、利賀地いきの川はコンクリートでまわりをかためていません。だから、生き物たちの住む場所がなくなることがないのだと思います。最後に、利賀地いきの人たちは、ポイすてをしないということです。ごみをすてていないから、空気がよごされることもなく、自由に生きていられるのではないかと思います。

ぼくは、このきれいなかんきょうがずっと続いてほしいと思います。そのために、ぼくたちにできることは、ごみをすてない、川をよごさない、しぜんのことを大切にする、ということです。

これからそれらをまもっていききたいと思います。自

分たちだけでなく、しぜんの中に生きている生き物たちのことも考えていきたいと思っています。



* 高学年部門 *

最優秀賞

私たちが変える百年後の未来

富山市立萩浦小学校 五年

吉田 よしだ
百花 ももか

天気予報のニュースを見て、家族はみんな、ため息をついています。

「明日の予想最高気温は、三十五度以上の猛暑日となるでしょう。熱中症にけいけいしてください。」

梅雨が明けてから、毎日気温は三十五度をこえてい

ます。暑い中で、アイスクリームを食べている私を想像しても、全然すずしくありません。そのアイスクリームは、すぐにとけてなくなってしまうからです。そしてまた、ため息をついてしまいます。イソップ童話集の「北風と太陽」では、太陽が勝ちました。やはり、人は暑さに弱いのだと思います。

暑さは、私たち小学生の生活にも、えいきょうを及ぼします。熱中症のきけんせいがあるため、プールに入る時間が短くなったり、外で遊べなかったりと、楽しみが制限されてしまうこともあります。そんな楽しみが制限されてしまうのは、私にとってとても大きな問題です。五年生の夏は、一度きりしかないのですから。

このような暑さが続くようになったのは、地球温暖化が原因の一つだと、言われています。土地の開発のため、草むらなどの植物をなくしてしまうと二酸化炭

素を吸収してくれないので、地球温暖化は進んでしま
います。草むらよりアスファルトほそうされた道路の
ほうが、車は移動しやすいのですが、緑がへり、二酸
化炭素がふえてしまいます。このように、私たち人間
が住みやすくなるほど、地球には悪えいきょうを与え
てしまうのです。

以前は、私の家の周りにも「ホテルがいてカエルが
もつと鳴いていたよ。」と、そ父やそ母から聞いたこ
とがあります。家の周りに、田んぼや草むらがたくさ
んあったからです。そこをぬける風が心地良く、夏で
も、今のような暑さではなかったそうです。

私は、家族でよく山や川にキャンプへ出かけます。
そこでは実際に、天然のミストで、じょう化されたお
いしい空気がいっぱい、たいへん気持ちよく過ごせ
ます。自然とみんなが笑顔になり、ずっとここにいた
いなと思える環境です。

そこで、一つ提案があります。キャンプ場のような
大きな森を作ることができなくても、各家庭に木を一
本ずつ植じゅするというのはどうでしょうか。緑のボ
ディーガードを作ります。「ちりも積もれば山とな
る」といいます。一人の小さな行動が広まれば、大き
な成果につながる可能性があります。

「明日の予想最高気温は、二十八度の夏日となるで
しょう。」

百年後の夏、毎日こんな天気予報が流れていること
を願います。



* 高学年部門 *

優秀賞

安全な水をずっと使いたい

富山市立速星小学校 五年

中村 なかむら 真颯 まさや 弥

ぼくは、総合的な学習の時間に、SDGsを学んだとき、世界では、安全な水を飲むことのできない人々が二十億人ほどいることを知りました。汚れた水しか飲むことができず、亡くなってしまいう人々も多いうることに驚きました。

ぼくの住んでいる場所の近くでも、昔はイタイイタイ病が起こり、大変な思いをした人々がいて、他人ごとではないと感じました。そこで、自分たちの使っている水の源である身近な川が、本当にきれいなのか気になり、夏休みに、中学生の姉と一緒に調べてみることにしました。

富山県内の神通川、常願寺川、地域を流れる坪野川の三つの川の水質を調査しました。調査方法は、一定量の水に、薬品を入れ、COD（科学的酸素要求量）を調べるものです。CODとは海域及び湖沼における有機物による水質汚濁標準となっているそうです。つまり、CODの数値が高いほど汚れているということです。

実際に川に行き、川の様子を見てみると、どの川も水が透き通り、とてもきれいだということに驚きました。そして、CODを調べてみると、三つの川で数値

に大きな違いはなく、どの川も自然の川の中では大変きれいだということが分かりました。中でも、イタイイタイ病の原因になった神通川の水が、年月が経ったとはいえ、こんなにきれいになっていることに驚きと喜びを感じました。

水質調査を行い、ぼくたちの生活の源である川を今後もきれいに保ちたいという思いが強くなりました。そこで、次に、生活と水との関係を調べてみることにしました。ぼくが、川で調べたCODは、五十七パーセントが家庭から排出されているそうです。食事、洗濯、風呂、トイレ等、ぼくたちが生活の中で水をたくさん使うことで、CODを増やしてしまっています。生活排水は、浄化センターできれいにされ、川や海に流されますが、ぼくたちが水を汚しすぎると、浄化センターでは、大変苦勞して水をきれいにしなければならぬそうです。

家庭から出るCODを少なくするには、食器を洗うときに、洗剤をあまり使わないことや、使い終わった天ぷら油は流さない、食器に残ったソースやドレッシングはふき取ってから洗うなど、様々な工夫があります。また、生活排水をきれいにするためには、さらに、多くの水が必要になることから、節水をすることも忘れてはいけません。

ぼくは、日本や世界の人々が、安全な水をずっと使い続けることができるようになってほしいと思います。そのために、今、自分にできることは、身近な生活の中で、安全な水を使うことができる喜びを忘れず、水を少しでも汚さず生活することだと思えます。これからも水を大切に、生活を続けていきたいです。

* 高学年部門 *

佳作

ぼくと魚とプラスチック

富山市立新保小学校 五年

佐双 さそう
颯斗 はやと

ぼくは、この夏、家族といとこの家族といっしょに岩瀬浜へ小アジつりに行きました。

つりでは、小アジの他に、フグやメジナ、ウグイがつれました。たくさんつれたのでうれしかったです。でも、海を見ると、プラスチックゴミがたくさん流れ

ていて、とても、悲しかったです。

プラスチックゴミの中でも、特に多かったのは、コンビニなどのプラ袋や、お茶などのペットボトルです。

中には、流れていたあみに羽がからまって、羽をけがして、飛ぶことができなくなってしまった鳥もいました。とてもかわいそうでした。つりに来た人や、海に遊びに来た人が、軽い気持ちでポイ捨てをしたかもしれないけれど、魚にとっては、命に関わるようなことになっているので、やめてほしいと心から思いました。

実際に、ニュースなどで、えさのクラゲと間ちがえて、プラ袋などを食べて死んでしまった海ガメや、プラスチックゴミを大量に飲み込んで死んでしまったクジラなどがいた、というのを目にしました。他にも、つった魚の中から大量のプラスチックが出てきたという事実もあったらしいので、気軽にプラスチックゴミ

をポイ捨てしないでほしいなと思いました。

今は、プラスチックがさらに細くなり、一〜五ミリメートルの大きさになったマイクロプラスチックも問題になっています。だから、そういったマイクロプラスチックや、プラスチックゴミをなくす機械が出てきてマイクロプラスチックや、プラスチックゴミが海から少しでもなくなり、その分、プラスチックゴミのせいで泳ぎにくかったり、間ちがえてプラスチックゴミを食べてしまい苦しむ魚が減ればいいなと、ぼくは思いました。

でも、機械だけにたよってはだめだと思えます。機械があるから大じょう夫というわけではなく、みんな一人一人にやれることをやっていけば、海にあるプラスチックゴミは増えることなく減っていきます。最後には、海に流れているプラスチックゴミが、ゼロになるのではないかなと思います。そのために、買い物

するときなどは、エコバックを使い、ポイ捨てをせず、何かした後に出たゴミは、しっかりとゴミ箱に捨てます。コンビニなどでもらうプラスチックでできたスプーンもいらなと言ったりして、なるべくプラスチックゴミがでないように生活していきたいです。

この世界から、プラスチックゴミで苦しむ魚がいなくなっしてほしいと、心から願います。そして、世界中の海がきれいになって、そして、ぼくはまた、家族ときれいな海に魚つりをしに行きたいです。



* 高学年部門 *

佳作

自然豊かな片貝川

富山市立大久保小学校 五年

村上 むらかみ 七星 ななせ

夏休みに、魚津のおばあちゃんの家へ遊びに行きました。おばあちゃんの家近くには片貝川があって、家族で上流のほうへ行ってきました。とても暑い日だったけど、川に入ると、水が冷たくて、気持ちよかったです。

帰ってきてから、片貝川について調べました。富山県の主に魚津市を流れる二級河川であり、片貝川の水系の本流で、水力発電、上水道などに利用されている。片貝川は、富山県の七大河川の一つである。名前は、「片峡」かたかい、つまり片側だけの峡谷きょうくという意味からなると言われていると分かりました。

調べてみると、今回遊んだ所よりもっと上流には、蛇石という石が河原にあり、蛇のような模様がある。片貝川に豊富な水量をもたらす神として、昔から大切にされてきたそうです。

また、洞杉という推定じゅれい五〇〇年以上と言われる天然杉が群生している。最大のもは、幹回りが十一メートルである。多くは根元に大岩を抱え込んでいることが特ちょうで、他では見られないような独特な景観を作り出していると分かりました。

でも、二つとも資料で調べてみたことなので、今度

は、実際に見てみたいと思いました。

お母さんが昔遊んだという河原におりて、はだしになって川の中に入ってみました。石の上に乗ると黒っぽい石が熱く、白っぽい石は熱くないと感じました。周りには、家の近くでは見れないような、とても大きな岩がたくさんありました。高さは私の身長と同じくらいで、両手を広げても、手を回せないほどの大きな岩でした。

川の流れのゆるやかな場所で石をひっくり返すと、ホタルやおたまじゃくしがいました。夜に飛び回っているホタルは見たことがあるけれど、昼間のホタルは初めて見たので、「こういうところで休んでいるんだな」と、思いました。ホタルは、水がきれいな所でしかくらせないと聞いたことがあるので、片貝川は水がきれいだと分かりました。私の家の近くにも、ホタルがいる用水があります。川にゴミを流したりすると、

ホタルがくらせなくなってしまうし、そのゴミが海に流れると、海に生き物も住めなくなってしまうから、自然を大事にしようと思いました。

川で遊んでいたときに、お母さんが子どものころの景色と変わらないと話していました。それを聞いて、私が大人になったときにも、自然豊かなこの景色が変わらないように、守っていききたいと感じました。



◆募集要項

★応募対象

富山県内の小学生

★作文のテーマ

- ① イタイイタイ病について調べたこと、考えたこと
 - ② 清流を守ってきた人々との活動
 - ③ 水と人間の暮らしの関わり
 - ④ 住んでいる地域の環境、自然について考えたこと
 - ⑤ 生き物とのふれあい体験
 - ⑥ 山や川・海とのふれあい体験
 - ⑦ 水や食の安全について考えたこと
 - ⑧ 学校・学級で取り組んでいる環境問題
 - ⑨ 個人・地域で取り組んでいる環境問題
- ※ これ以外のテーマでも本コンクールの趣旨に沿うものであれば可とします。

(例えば、海洋汚染・地球温暖化・大気汚染・自然災害・健康被害などについて調べたこと考えたこと)

★応募のきまり

- ① 応募作品の字数は以下のとおりです。
 - 小学校1・2年生 400字詰原稿用紙6000字以内
 - 小学校3・4年生 400字詰原稿用紙10000字以内
 - 小学校5・6年生 400字詰原稿用紙12000字以内
- ② 一人1作品とします。
- ③ 原稿は縦書きとし、1行目にタイトル、2、3行目に学校名、学年、氏名(ふりがな)を明記し、本文は4行

目から書き始め、袋とじにしないで右肩をホッチキスでとめてください。

- ④ 応募作品は他のコンクール等へ応募していない未発表のものに限りません。
- ⑤ 応募者の情報及び応募作品を主催者において自由に発表することについては承諾していただきます。
- ⑥ 応募作品は、郵送でお願いします。個人でも応募できます。学校・学級でまとめて応募する場合は、応募者名の一覧(学年、題名記載)と担任または担当者のお名前を書いたものを同封してください。
- ⑦ 応募作品の返却は原則行いません。

★応募期間

2021年7月1日～10月20日

★賞の種類

- | | |
|------------|---------------------|
| A) 清流環境歴史賞 | 最優秀賞、優秀賞、佳作 |
| B) 清流環境体験賞 | 最優秀賞、優秀賞、佳作 |
| C) 清流環境科学賞 | 最優秀賞、優秀賞、佳作 |
| D) 清流環境奨励賞 | (がんばって応募してくれた学校・学級) |

※応募する賞を明記する必要はありません。審査委員会で適切に判断します。

★表彰

- ① 小学校1・2年生の部(低学年)、3・4年生の部(中学年)、5・6年生の部(高学年)の歴史賞、体験賞、

科学賞毎に、最優秀賞、優秀賞、佳作を選考します。

② 最優秀賞受賞者には表彰状と盾、副賞（図書カード5千円分）を贈ります。

③ 優秀賞受賞者には表彰状と副賞（図書カード3千円分）を贈ります。

④ 佳作受賞者には表彰状と副賞（図書カード1千円分）を贈ります。

⑤ 清流環境奨励賞を受賞の学校には表彰状と盾、副賞（図書カード1万円分）、学級賞には表彰状と副賞（図書カード3千円分）を贈ります。

⑥ 清流環境奨励賞を受賞した学校・学級へイタイイタイ病に関係した方々（語り部等）を派遣して公害・環境教育のお役に立ちたいと思います。

⑦ 応募者全員に参加賞を贈ります。

★その他

① 作品は清流環境作文コンクール審査委員会で選考いたします。

② 選考結果は2022年1月上旬に発表する予定です。表彰式は2022年2月を予定しています。

③ 個人情報取扱い
応募の際に提供いただく個人情報、以下に掲げる事項に必要な範囲で使用します。

- ・本コンクールの運営（外部審査員への提供を含む。）
- ・受賞作品の発表
- ・当財団が行う事業全般についての連絡

④ 応募者は、応募いただいた作文が受賞した場合に、当財団が主催、共催若しくは後援する事業、当財団のホームページ及び当財団が適当と考える場所（富山県立イタイイタイ病資料館、他地域の公害資料館等）において、当該応募者の氏名・所属・受賞作文・受賞した賞の種類を公表すること、及び当該受賞作文を他で公表する場合には、「一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会の表彰を受けた」旨付記し、当該応募作文が掲載された出版物、ホームページ等当財団宛に提出をいただくことについて、応募をもってご承諾をいただくこととします。

⑤ 受賞作品はホームページからダウンロードできます。

⑥ 本コンクールの運営の内容、応募者の属性及び応募いただいた作文（氏名、所属等特定の応募者を識別することができ情報は含みません）について、大学、その他、当財団が適当と認めた機関における研究及び教育に使用されることがあります。研究・教育利用規約については、下記までお問い合わせください。

⑦ 本要項の記載内容はやむを得ず変更をする場合があります。変更をした場合は、当財団のホームページその他の場所において速やかに発表いたします。

⑧ 入賞作品は、文集掲載時に全体のバランスを考え、表記や表現を一部改める場合があります。

2021 年度
第 4 回 清流環境作文コンクール
受賞作品集

発行：一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
イタイイタイ病対策協議会

清流会館 〒939-2723 富山市婦中町萩島 684
TEL 076-465-4811 FAX 076-465-4814

印刷：株式会社なかたに印刷

〒939-2741 富山市婦中町中名 1554-23
TEL 076-465-2341 (代) FAX 076-465-2340

発行日：2022 年 2 月 25 日

